



Arcserve Unified Data Protection 9.x

製品のご紹介

2024 年 8月
Arcserve Japan

arcserve®

Rev 2.5



目次

1. Arcserve UDP の概要とフォーカスエリア
2. 様々なクラウド利用のニーズへの対応
3. セキュリティの確保・ランサムウェアへの対策
4. ライセンス

Arcserve Unified Data Protection 9.x 製品のご紹介



1. Arcserve UDP の概要とフォーカスエリア

Arcserve Unified Data Protection (UDP)



イメージバックアップをベースにArcserve シリーズ
を統合したバックアップソリューション

Arcserve UDP

統合バックアップソリューション

Arcserve Backup

データ保護の大黒柱
頼れるバックアップ

Arcserve Replication/HA

レプリケーションの
デファクトスタンダード

Arcserve UDP : 高い顧客満足度 !



ITreview

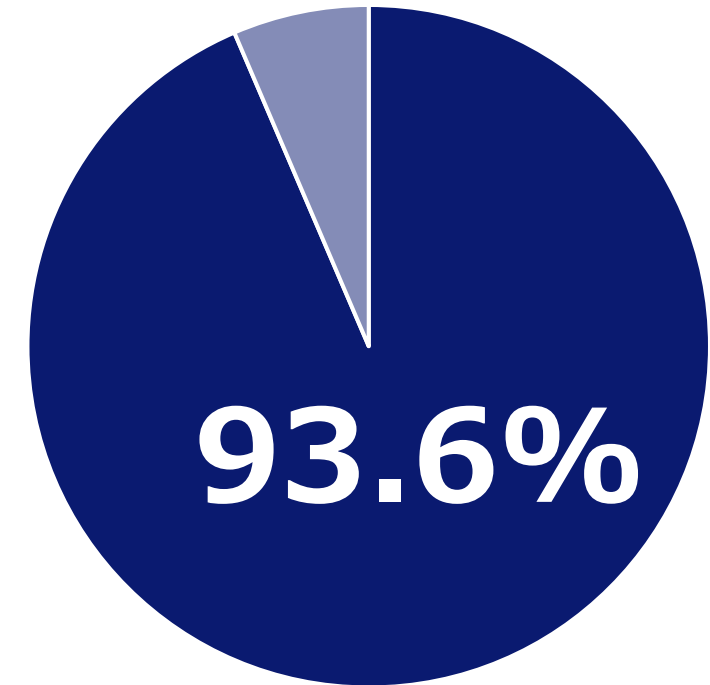
★★★★★

どのような課題解決に貢献しましたか?どのようなメリットが得られましたか?

永久増分バックアップと重複排除機能にてバックアップの時間を以前に比べ半分に短縮できた
またデータ容量も半分程度に削減できたため、H/Wコストも削減できた
システム移行の際はバックアップデータからBMRにて移行できるため簡単で一貫した手順で移行が行えた

業種 ソフトウェア・SI 職種 ITアーキテクト 従業員規模 100-300人未満

Arcserve テクニカル サポート満足度



お問合せ終了後のアンケートで、4以上の評価（5段階評価）をいただいた割合 - 2023年

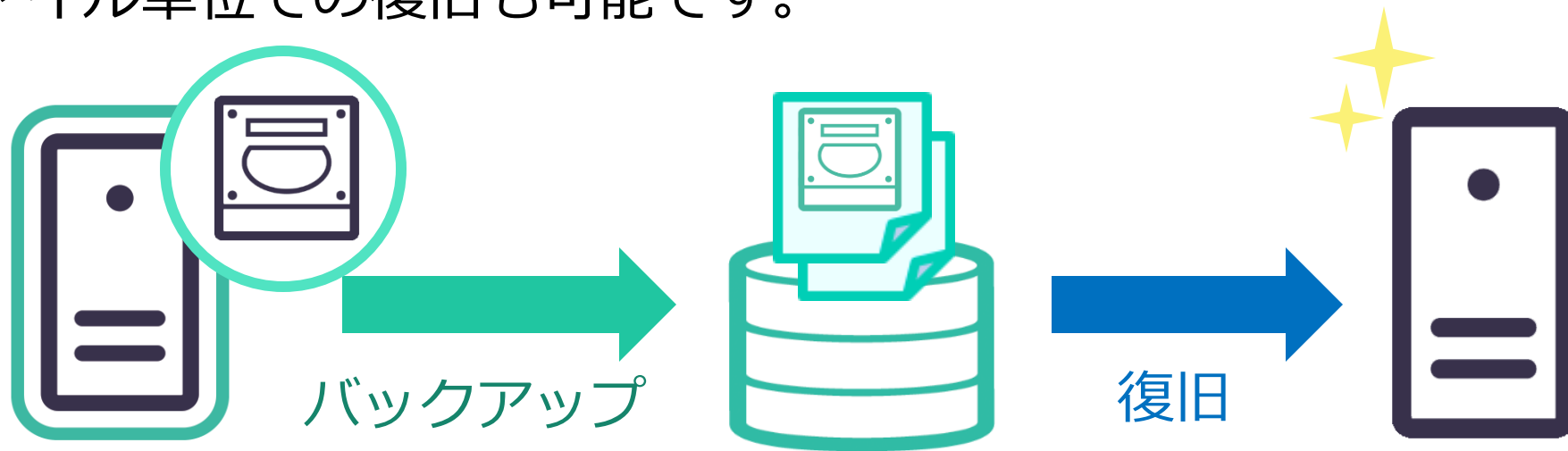
提供元 : アイティクラウド株式会社

簡単イメージバックアップ Arcserve UDP



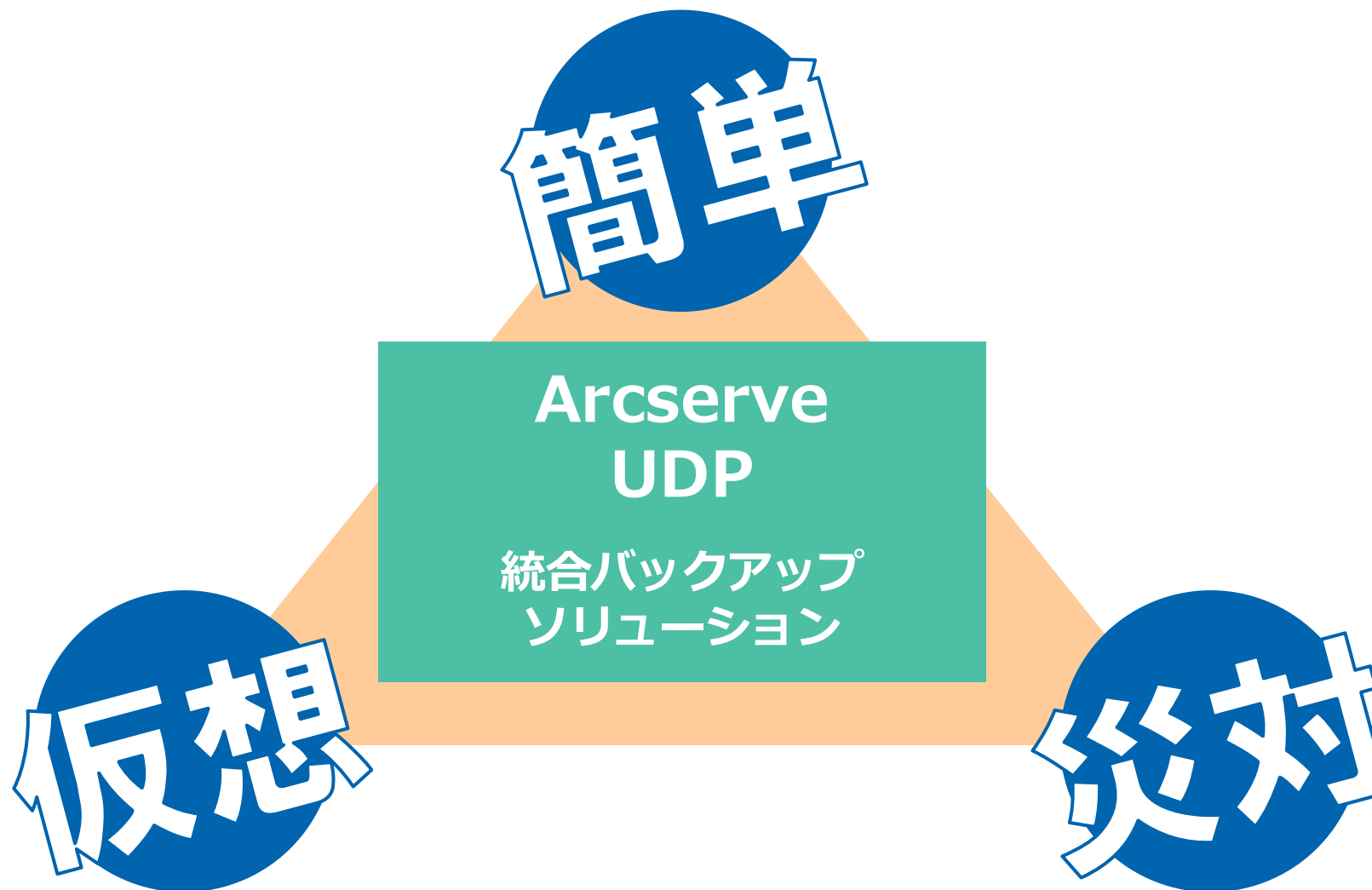
イメージバックアップとは

ファイル単位ではなく、ディスク全体を丸ごと高速にバックアップします。
OSやデータを含むシステム全体をまとめて簡単に復旧できます。
個別のファイル単位での復旧も可能です。



Arcserve UDPは異なる機種への復旧やP2Vも標準サポート！
(物理から仮想への復旧)

Arcserve UDP のフォーカス エリア



Arcserve UDP のフォーカス エリア



簡単

簡単！でも **柔軟に バックアップ**

簡単なだけでなく、小規模・大規模、物理・仮想・クラウド、Windows・Linuxを問わず、柔軟なバックアップやリストアを実現

仮想

仮想化統合基盤に関わる要件をまとめて対応

大規模仮想化統合基盤や、仮想基盤に統合できない物理サーバの保護、テープへのバックアップなどもまとめて Arcserve UDP で解決！

災対

災害対策を適切なコストで実現

ストレージやネットワークを効率的に利用し、全体コストを抑えてシステムの災害対策を実現



簡単！でも柔軟にバックアップ

運用を簡単にし、管理者の負担を軽くする機能を **多数** 実装しました

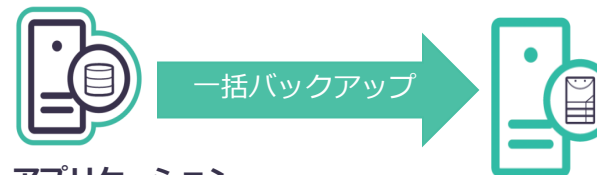
継続的な増分バックアップ

初回のフル バックアップ以降は
増分バックアップだけで運用



アプリケーションの 簡単バックアップ

Oracle、SQL Server、Exchange、
SharePoint を OS とまとめてオンライン
バックアップ/復旧できるため、運用が簡単！



OS & アプリケーション

ベアメタル復旧

システム全体を簡単に復旧。異なる機種へ
の復旧やP2Vも標準サポート！



ドラッグ&ドロップによる 簡単ファイルリストア

Windows エクスプローラまたは、Linux
ファイルブラウザを使い、直感的な操作で
ファイル リストア



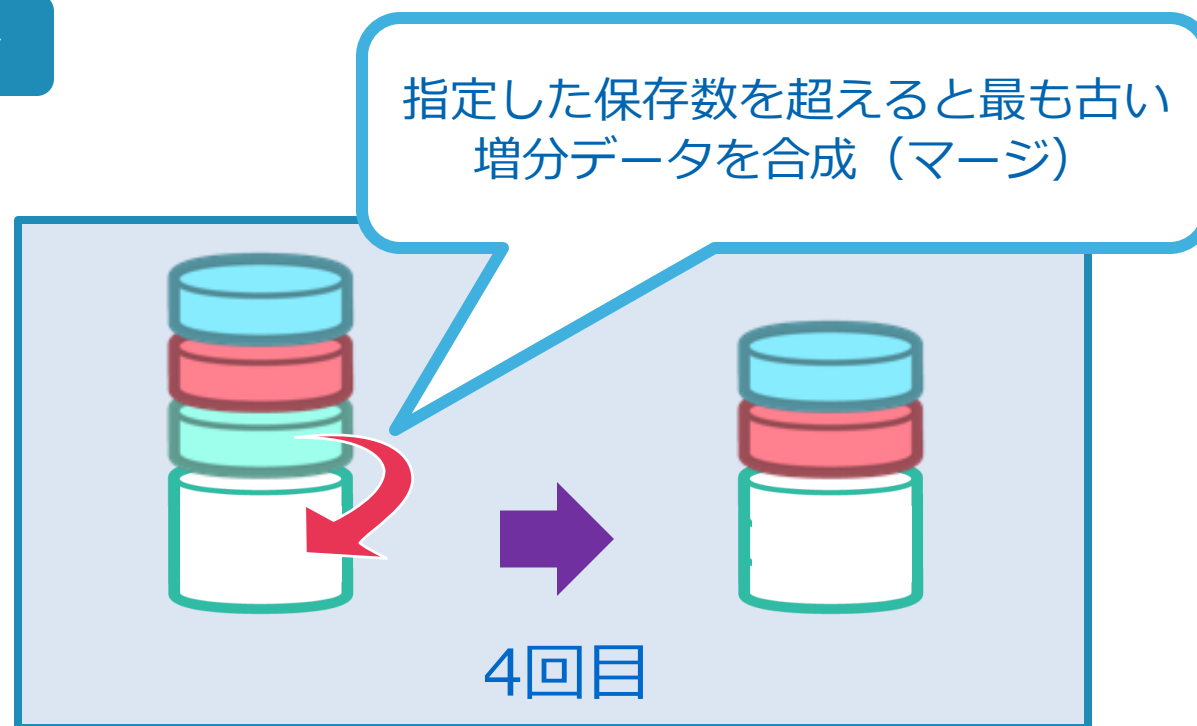
Windows / Linux

継続的な増分バックアップの効果



2回目以降フルバックアップの取り直しが不要なため、
バックアップ時間短縮とディスク使用量の節約が可能!!

バックアップデータを3世代保存する場合



※初期設定では7世代を保存(最大1440世代まで設定可)

復旧も高速イメージ リストア



Windows のリストア オプションで、ブロック レベル リストアの選択が可能

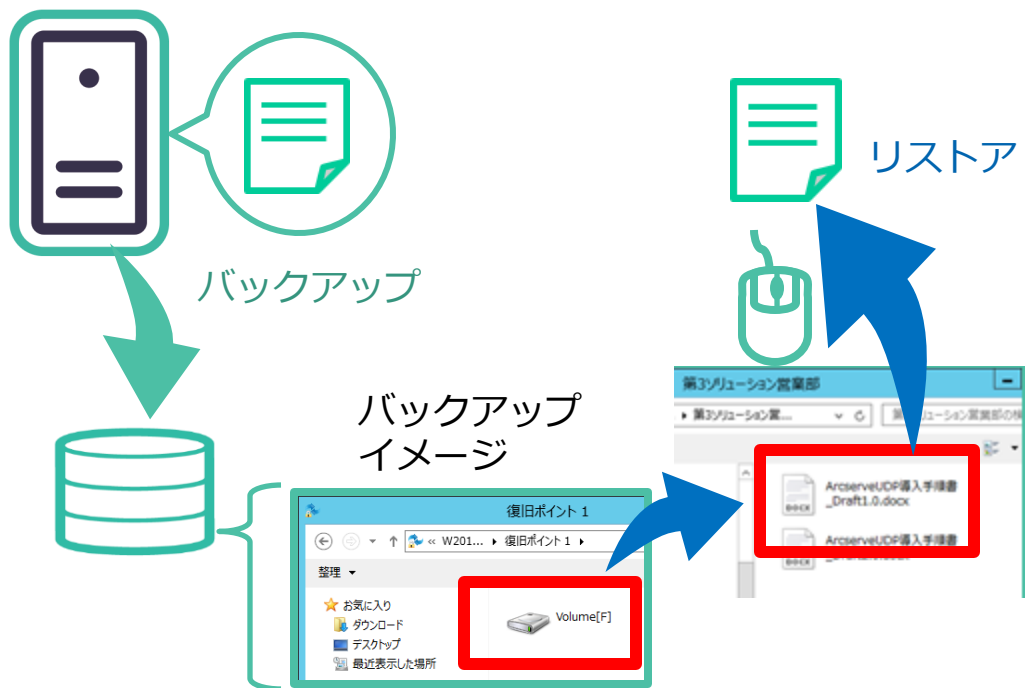


多数のファイルが格納されたボリュームも**短時間に復旧**

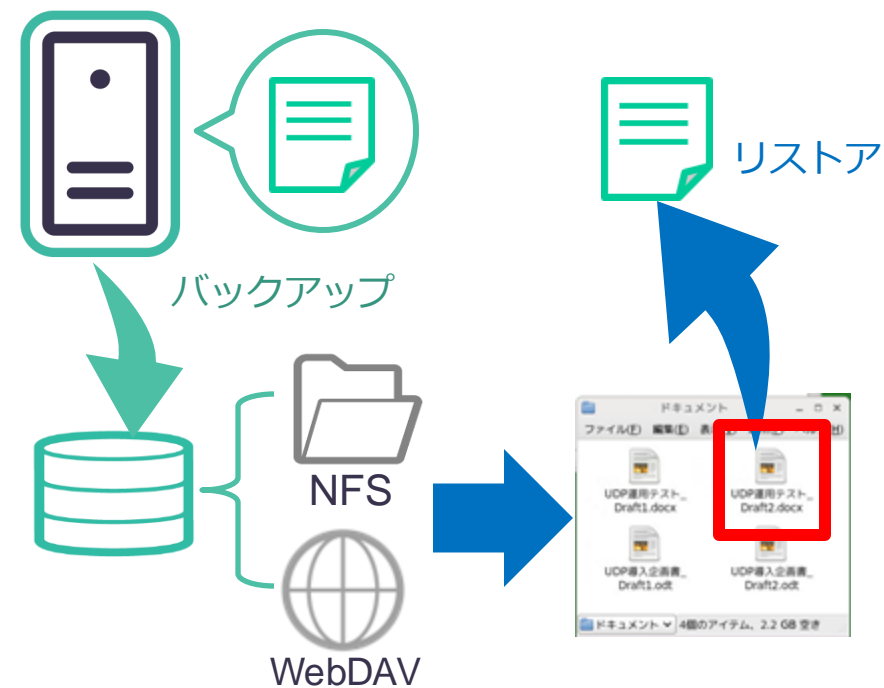


ドラッグ & ドロップによる簡単ファイルリストア

Windows 環境



Linux 環境

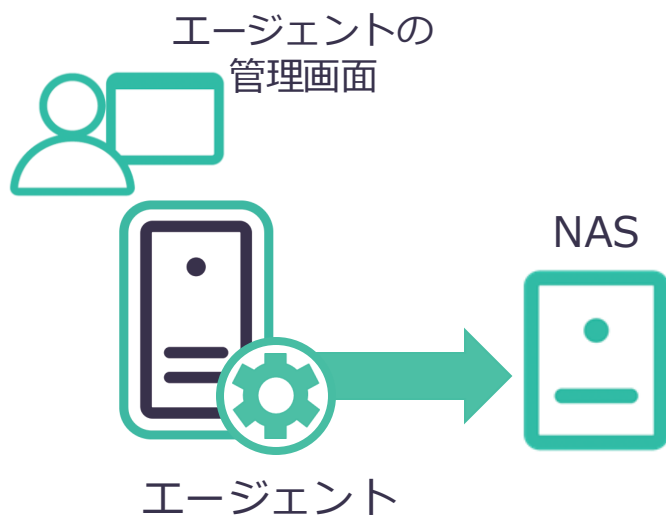


Windows も Linux も、簡単操作によるファイル リストアを実現

複数サーバ環境でも簡単なバックアップ運用を実現

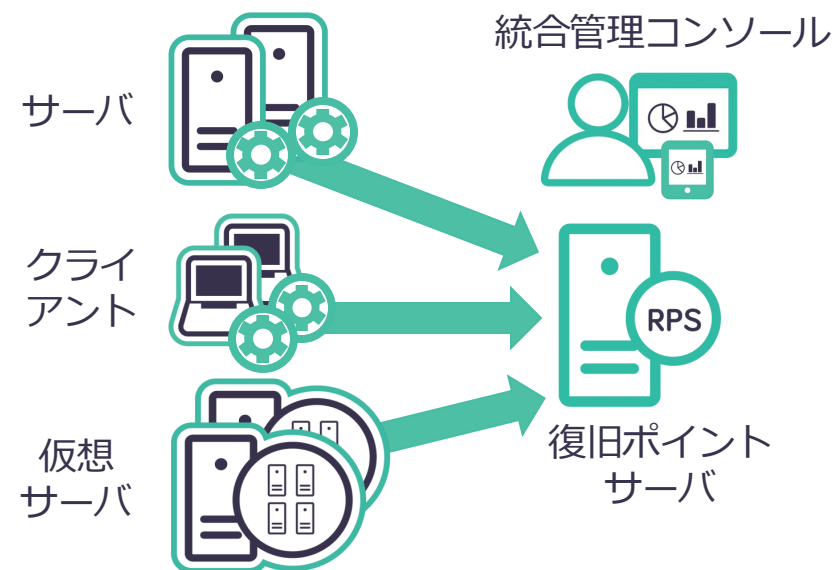


単体サーバのバックアップ



エージェントだけでバックアップ運用

複数サーバのバックアップ



複数の対象を一元管理で、まとめてバックアップ運用

システム構成の変更に合わせて**拡張可能！！**

統合管理を実現する Arcserve UDP のコンポーネント



Arcserve Unified Data Protection

エージェント

物理・仮想マシンの
バックアップを実行



コンソール (統合管理サーバ)

スケジュール管理
および操作画面を提供



復旧ポイント サーバ

バックアップデータの
格納庫を提供



環境に合わせて構成変更が可能

コンソール

こんな時に
便利！

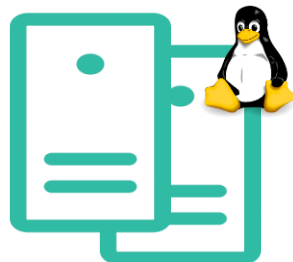
➔ Windows / Linuxをまとめてバックアップしたい

➔ 物理や仮想環境、クラウドのバックアップをまとめて管理したい

物理サーバ (Windows)



物理サーバ (Linux)



仮想マシン
(エージェントレス)



クライアントPC

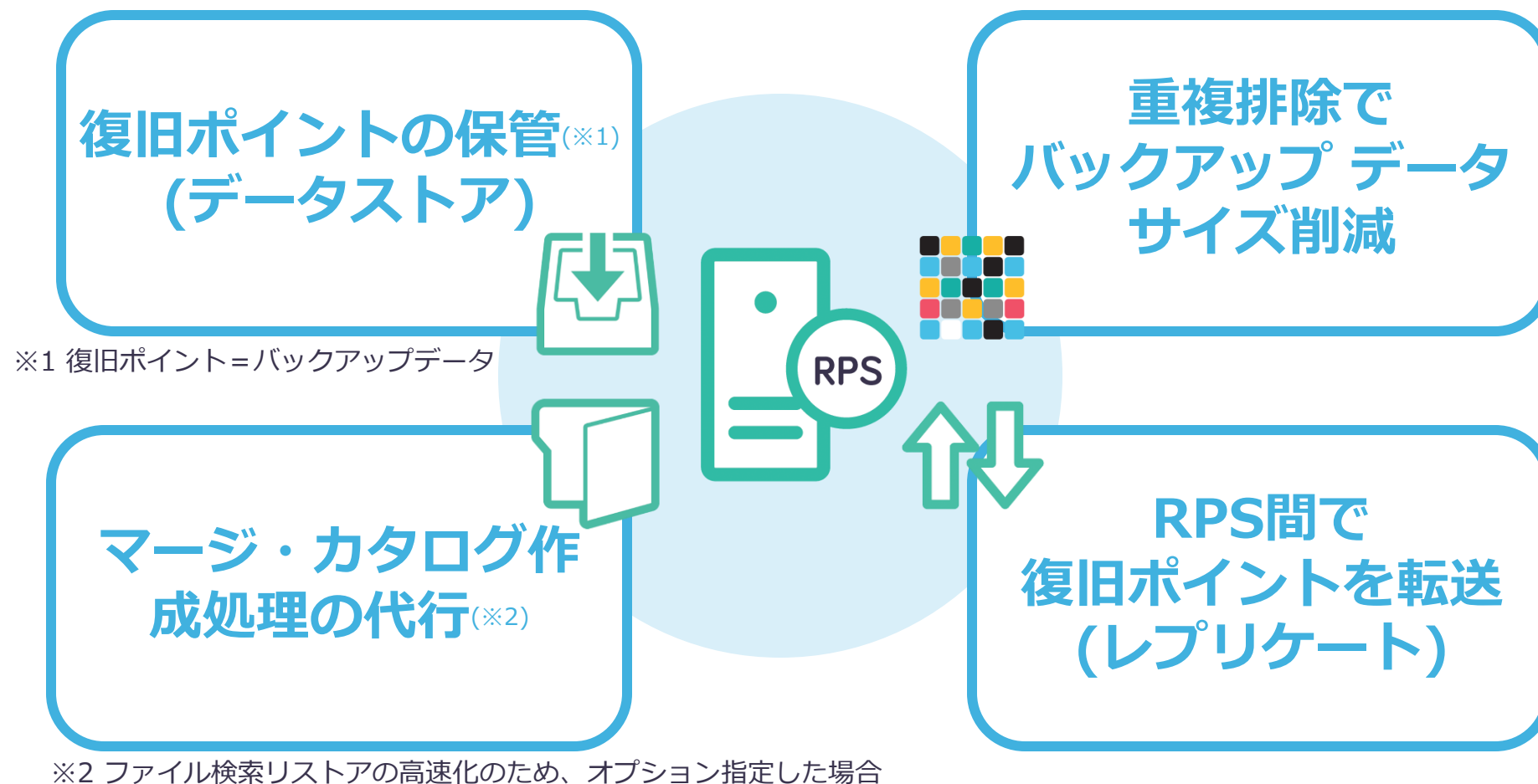


その他、
共有フォルダ、
Microsoft 365 など

アクション	ステータス	ノード名	VM名	プラン
	✓	10.58.174.200		UNC Path
	✓	10.58.174.107	AHV-Proxy	AHV Hotadd
	✓	10.58.174.154	LBS0001	AHV Hotadd
✓	✓	10.58.174.217	AHV-VM1	AHV Hotadd
	!	ahv-mnt		
	!	ahv-proxy		
	!	ahv-proxy		

インターネットブラウザを使って
どこからでも簡単にアクセス可能

復旧ポイントサーバ (Recovery Point Server : RPS)

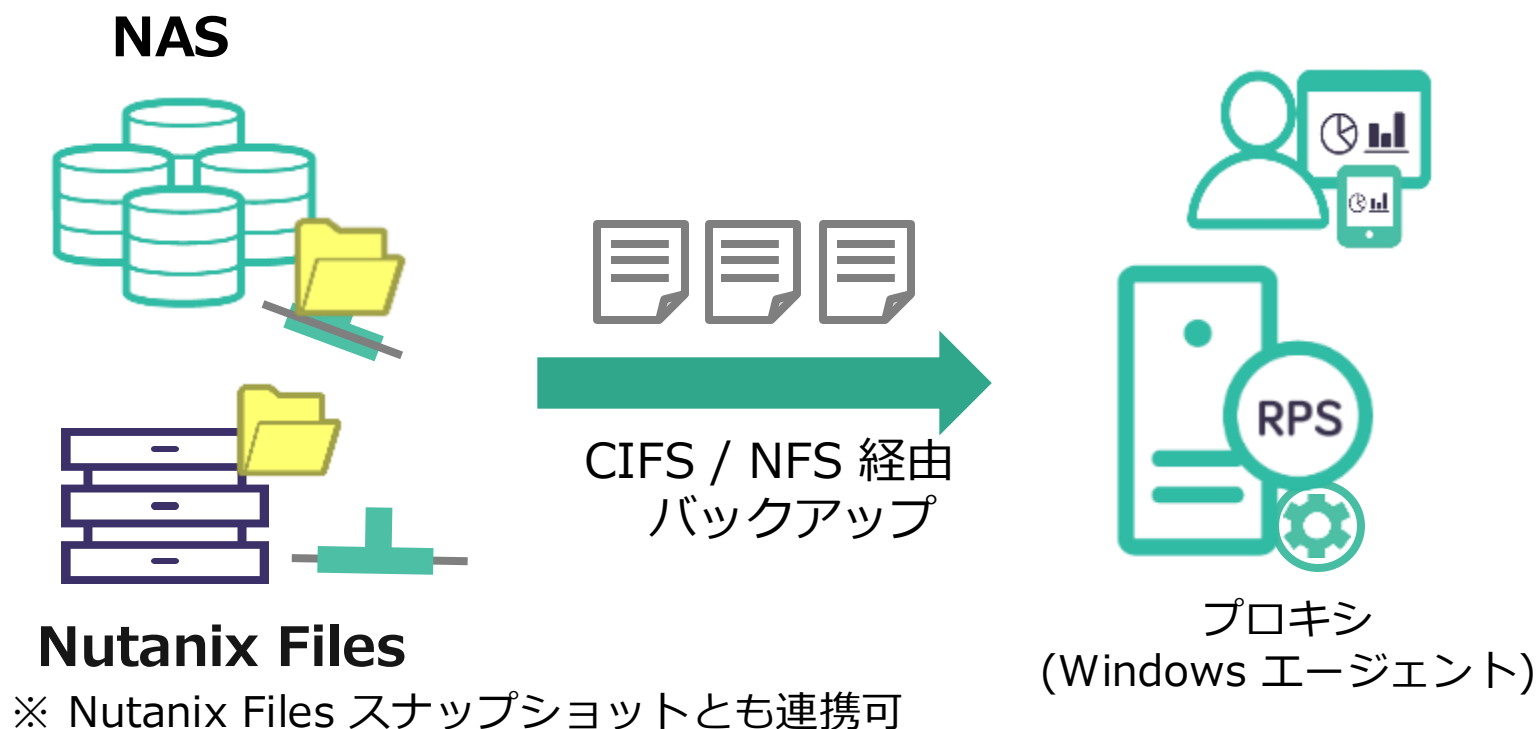


バックアップ サイズの低減と災害対策を実現する高機能なデータ格納庫を提供

共有フォルダ (CIFS/NFS) のバックアップ



エージェントが導入できない NAS やストレージ上のデータをバックアップ



共有フォルダ単位で
バックアップ

継続的なファイル増分
バックアップ

バックアップデータの
重複排除可

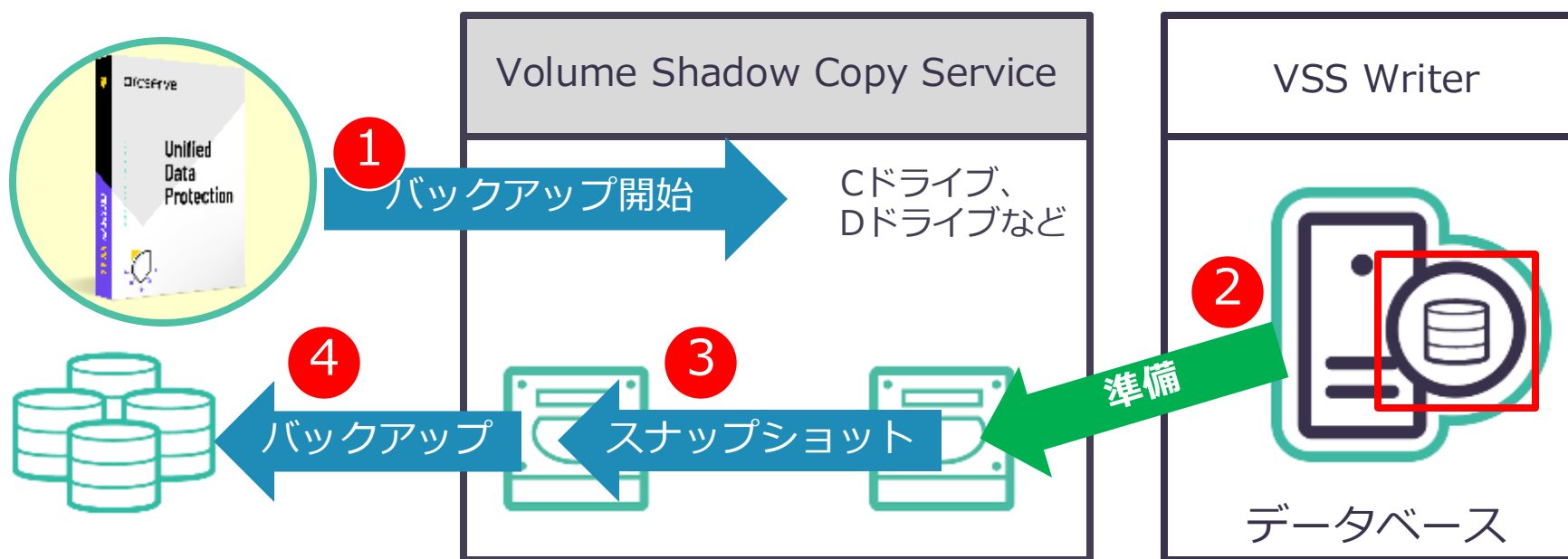
大容量 NAS データも最小化して保存！

稼働中のアプリケーションも簡単にバックアップ



アプリケーションの VSS Writer と連携。サーバ丸ごとバックアップで簡単！

- Microsoft SQL / Exchange / SharePoint 、 Oracle Database (Windows) 、 Active Directory



Oracle データベースの RMAN 対応

Windows / Linux 上の Oracle データベース を Recovery Manager (RMAN) でバックアップ/ リストア・リカバリ



Windows / Linux

エージェントレスで
データベースを保護

Point in Time, SCN,
ログシーケンスを
指定してリカバリ

アシュアードリカバリで
整合性の確認可能

※ 日本では、Oracle RAC 環境は非サポートとなります

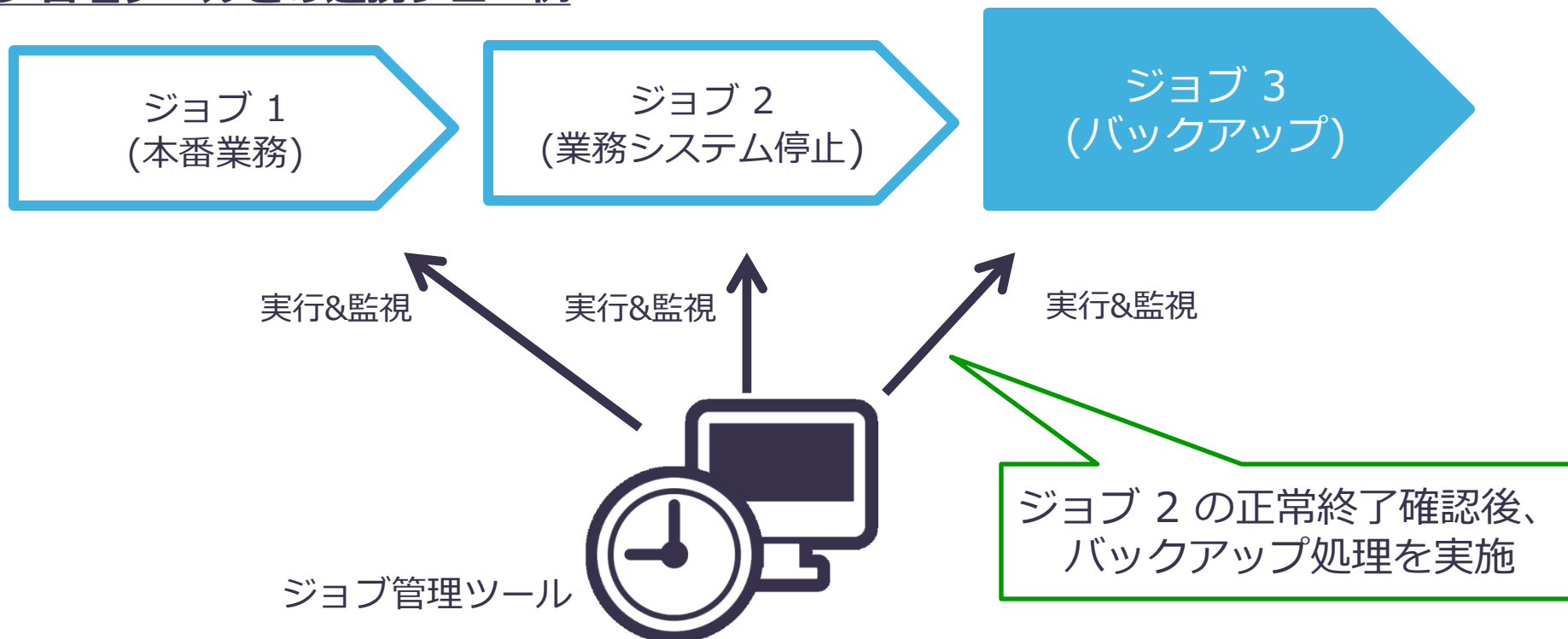
コマンドライン インターフェースによる柔軟なバックアップ運用



こんな時に
便利！

- ➡ バックアップ/リストアをスケジュール以外で自動実行したい場合
- ➡ ジョブ管理ツールからバックアップ処理を実行したい場合

ジョブ管理ツールとの連携フロー例





その他の機能



リソース構成ウィザードによる初期設定の簡略化

物理サーバや仮想マシンなど複数のバックアップ対象の登録やバックアップ先など必要な設定をウィザード形式で順に設定するだけで、初心者でも簡単に設定可能！

柔軟なバックアップ設定

- 指定した曜日や日次/週次/月次のバックアップスケジュールが設定可能
- 週次や月次、曜日指定のスケジュールを組み合わせた柔軟なスケジュール設定が可能

Active Directory のオブジェクトレベルリストア

- 誤って消してしまったActive Directoryのユーザやコンピュータ アカウントなどを個別のオブジェクト単位でリストア可能
- オンラインで Active Directory オブジェクトのリストアが可能。業務への影響を最小化

Linux 環境でも簡単 GUI 操作

Linux 環境でも マウス オペレーションによる直感的なバックアップ、復旧の操作が可能

Arcserve UDP のフォーカス エリア





仮想化統合基盤に関わる要件をまとめて対応



仮想環境に統合するシステムに求められる多くの機能を盛り込みました

物理・仮想マシンの統合管理

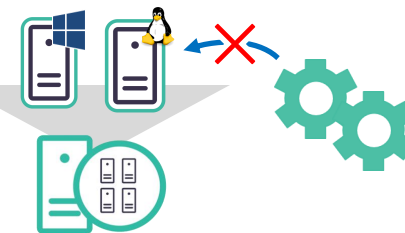
物理、仮想のバックアップ/リストアを1つの画面でまとめて監視・管理



エージェントレス バックアップ

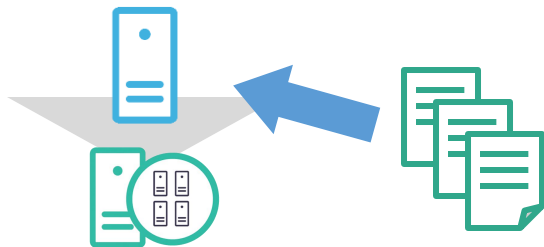
仮想マシンにエージェントを入れずに丸ごとバックアップできるので、導入・運用が簡単！

Microsoft Hyper-V
VMware vSphere
Nutanix AHV



VM単位、ファイル単位での復旧

VM 全体の復旧はもちろん、個別ファイル単位でのリストアも可能



稼働中アプリケーションの保護

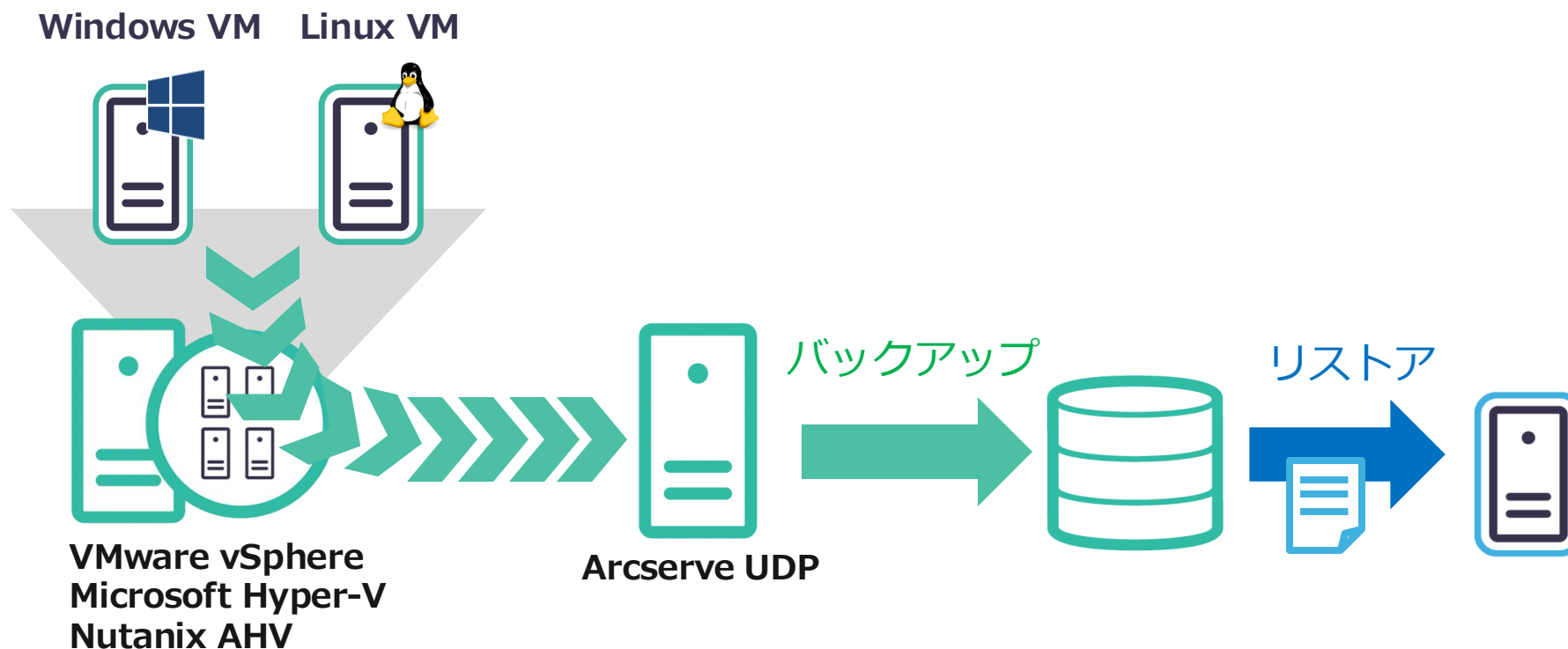
物理と同様に、稼働中のMicrosoft SQL / Exchange / Share Point / Oracle DB の保護が可能



仮想環境のエージェントレス バックアップ



VMware vSphere、Microsoft Hyper-V、Nutanix AHV ※1 の
仮想マシンを エージェントレス でバックアップ



継続増分&重複排除バックアップ運用も可能！

※1 AHV 環境のエージェントレス バックアップは、Advanced Edition for Nutanix に対応

※2 Oracle、SQL Server、Exchange、SharePoint をサポート



エージェントレス バックアップ でもここまでできる！



停止中の仮想マシンのバックアップおよびファイル単位のリストア

- Windows 仮想マシンが停止中に取得したバックアップデータからファイル単位のリストアが可能
- VMware vSphere および Microsoft Hyper-V 環境で利用可能

Microsoft Hyper-V クラスタ環境のサポート

- Microsoft Hyper-V クラスタ上の仮想マシンをエージェントレスでバックアップ
- ライブマイグレーションで移動した仮想マシンのバックアップも対応

仮想マシンの自動検出 + 自動バックアップ

- VMware vSphere や Microsoft Hyper-Vの仮想マシンを定期的に自動検出し、管理者にメールで通知
- VMware / Hyper-V 環境の新規仮想マシンを自動的に登録してプランに追加できるため、新規ノード追加時の漏れが無いバックアップと、運用の効率化が可能

様々なVMware vSphere 環境のサポート

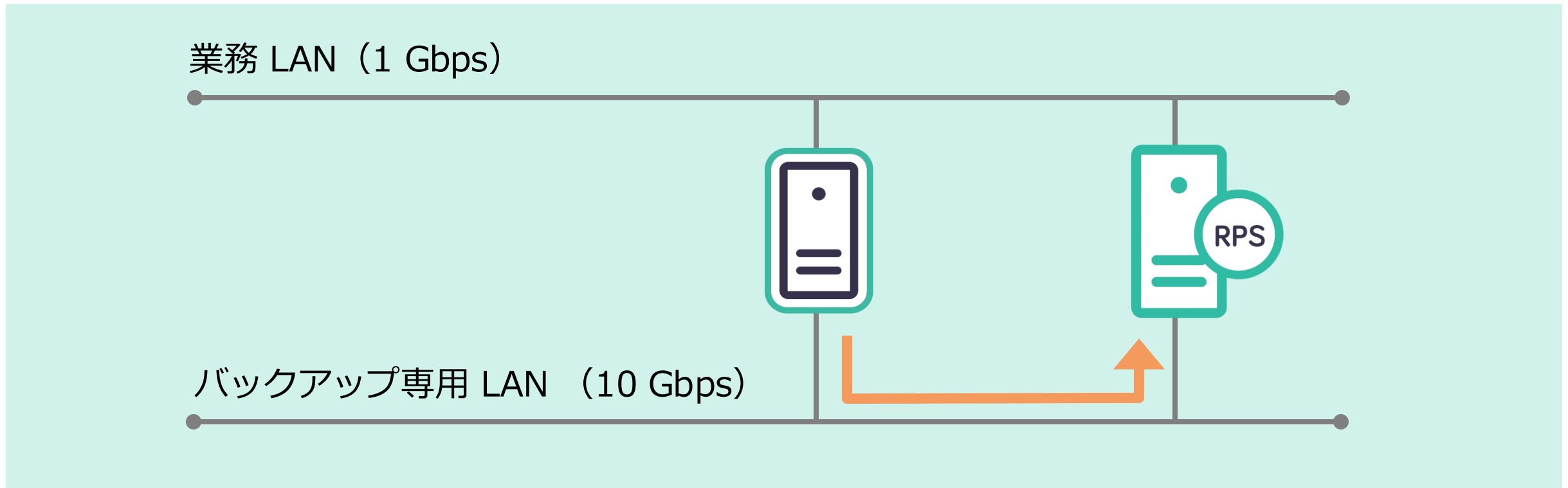
VMware vSphere vMotion、HA、vSANや vNetwork Distributed Switch (vDS)が利用されている環境のバックアップおよびリストアをサポート

参考：[vSphere ESXi の各機能 \(vMotion など\) に関する Arcserve UDP のサポート状況について](#)



「バックアップのネットワーク指定」の使用例

業務 LAN より高速なネットワークをバックアップ専用 LAN として指定すれば、
バックアップ時間の短縮が期待できます！

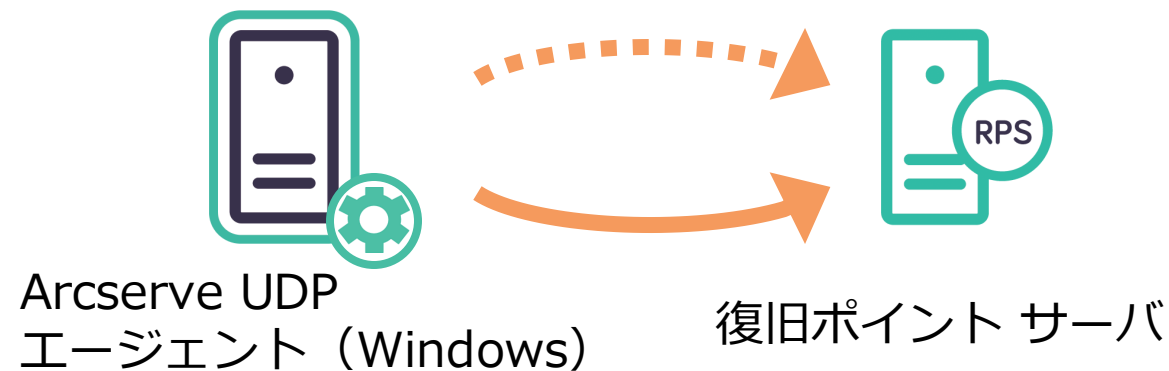


Windows エージェントと、仮想のエージェントレスに対応



Windows エージェントでのバックアップ

Arcserve UDP エージェント (Windows) 導入
サーバと復旧ポイント サーバ (RPS) 間の
バックアップ経路を指定できます。



仮想マシンの エージェントレス バックアップ

ハイパーバイザーとバックアップ プロキシ間、
バックアップ プロキシと RPS 間の
バックアップ経路をそれぞれ指定できます。



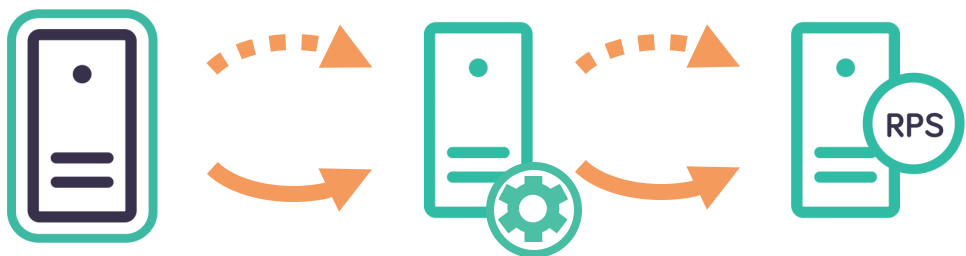
※ ハイパーバイザーは ESXi、Hyper-V、Nutanix AHVに対応しています。



「レプリケート / リストア」のネットワーク指定

バックアップ以外でも、レプリケートやリストアに使用するネットワークを指定可能に

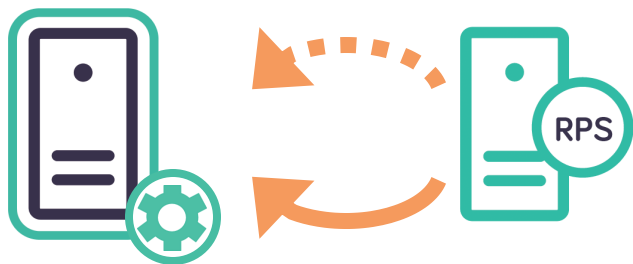
Linux エージェントでのバックアップ



RPS 間のレプリケート



Windows / Linux のファイルリストア



VM の復旧

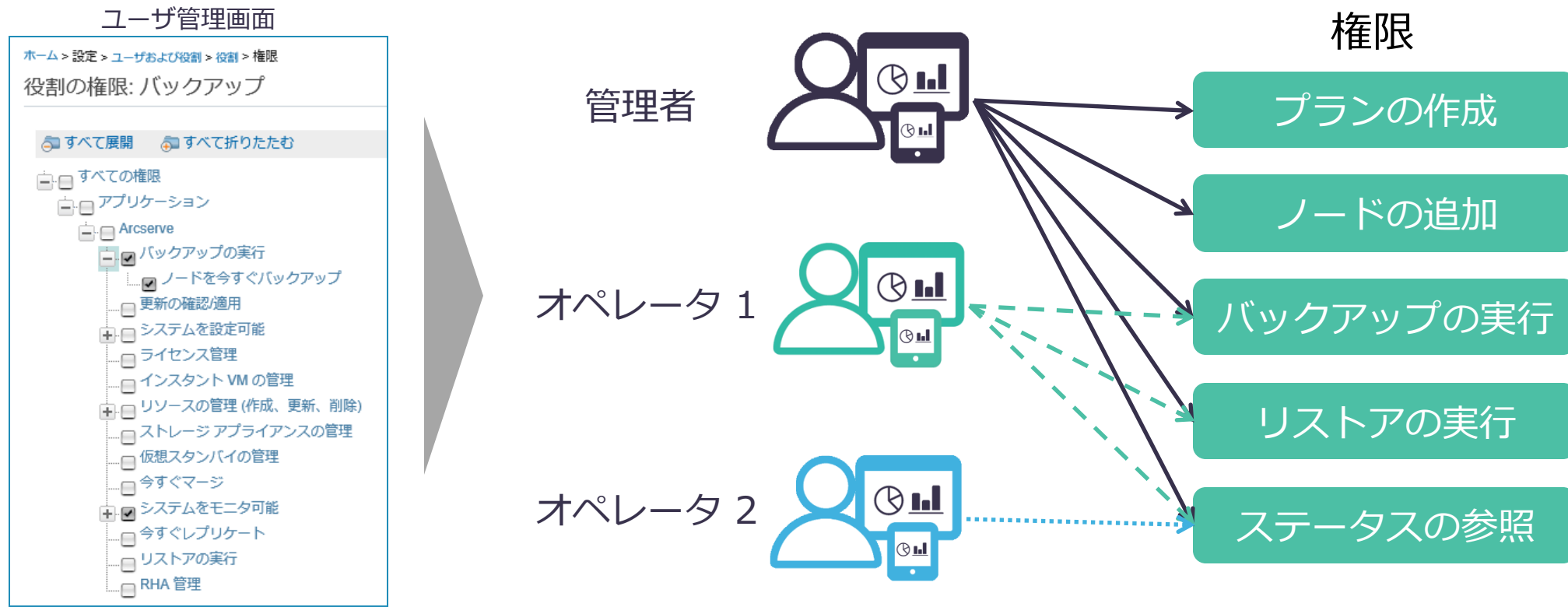




ユーザ管理による権限の割り当て

こんな時に
便利！

- ➔ 管理者以外にはバックアップ設定を変更させたくない
- ➔ オペレータにはステータス参照だけを許可したい



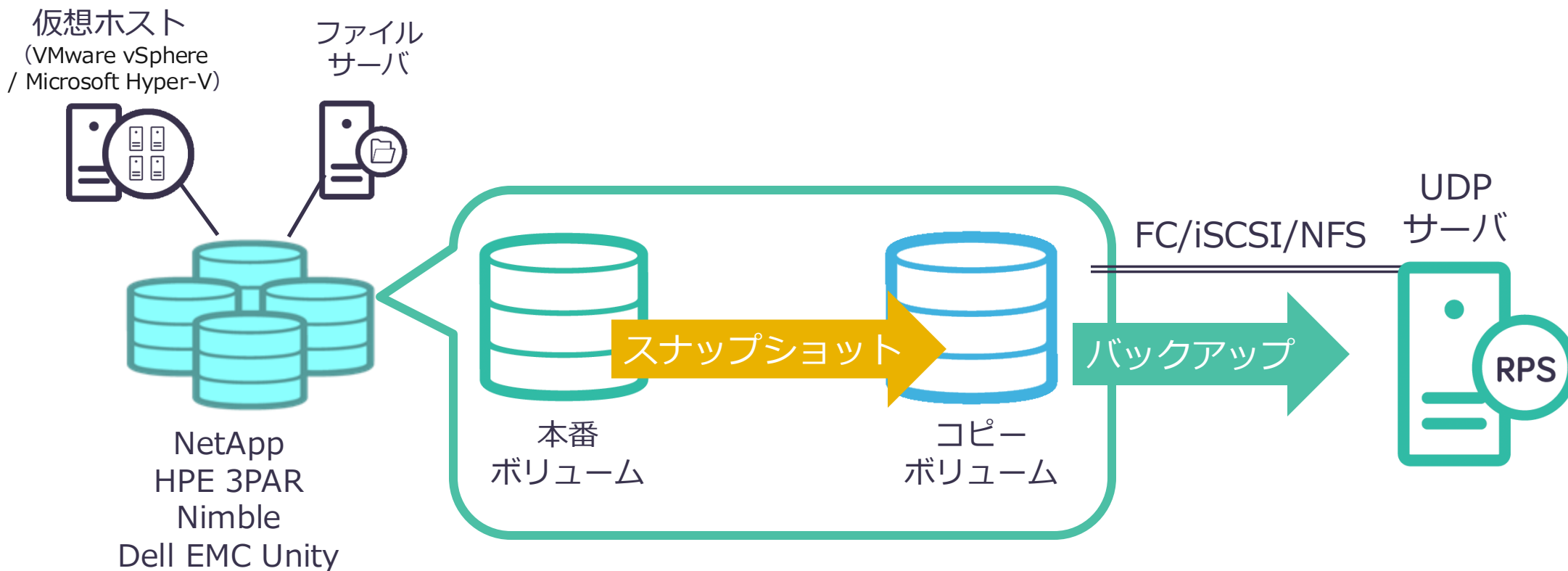
ユーザごとに操作権限を設定してセキュリティを強化



大容量データの高速バックアップ

ここが
ポイント！

- ➡ ハードウェア スナップショットと連携した高速バックアップを実現
- ➡ 構成次第でVM 領域やファイル サーバ領域のLANフリー バックアップも可能



Arcserve UDP のフォーカスエリア





災害対策を適切なコストで実現

災害対策ソリューションに求められる多くの機能を盛り込みました

バックアップデータの重複排除

エージェントで重複排除を実行！複数サーバ間の重複排除も行い、少ない容量で多くの世代を残せる



バックアップデータのレプリケート

標準機能でバックアップデータの転送機能を搭載！遠隔地への保管に最適



仮想スタンバイサーバの自動作成

バックアップデータを元に仮想マシン作成
障害時に代替機として利用
遠隔地で利用し事業継続が可能



インスタント VM

バックアップデータから直接起動した仮想マシンを
本番サーバの替わりとして利用可能



こんな時に
便利！

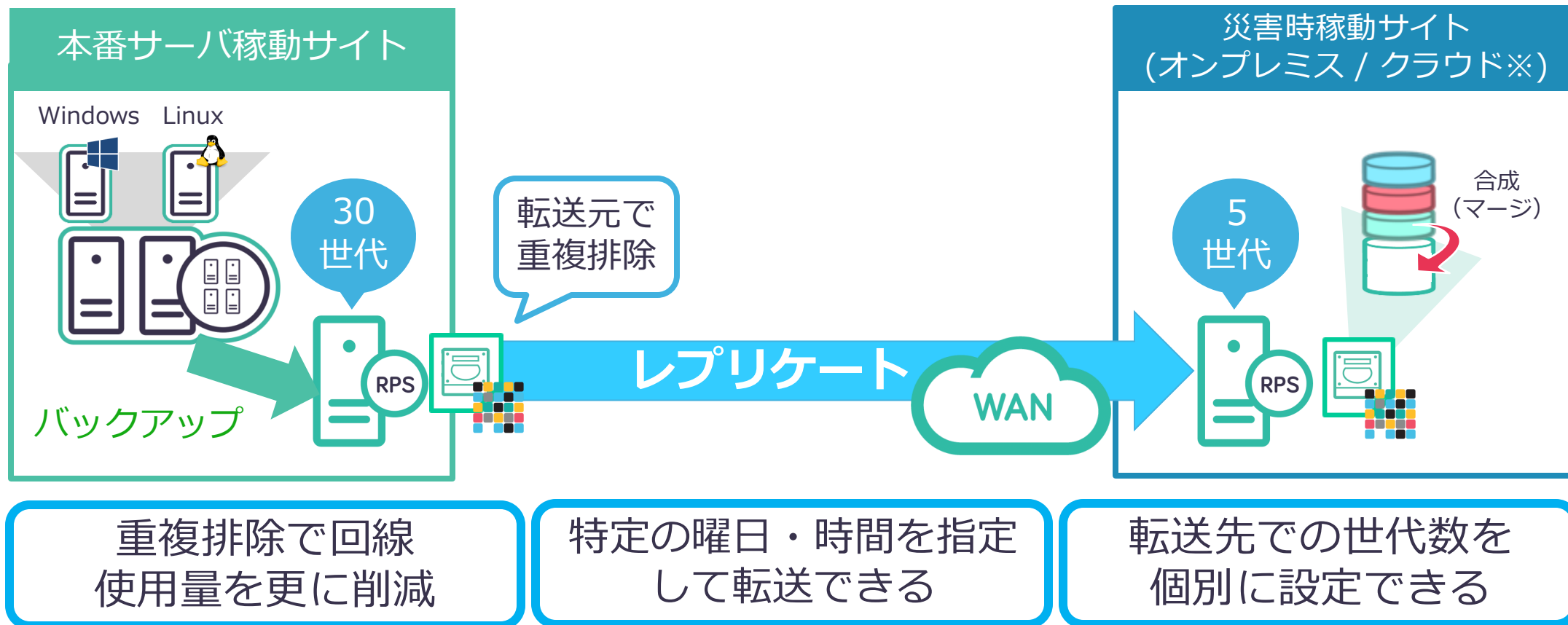
- ➡ バックアップデータ容量を少なく保存したい
- ➡ ネットワークに流れるデータ量を少なくしたい



バックアップ データの遠隔地への転送

こんな時に
便利！

- ➔ バックアップ データを遠隔地に保管しておきたい
- ➔ WANに流れるデータは**更に**少なくしたい



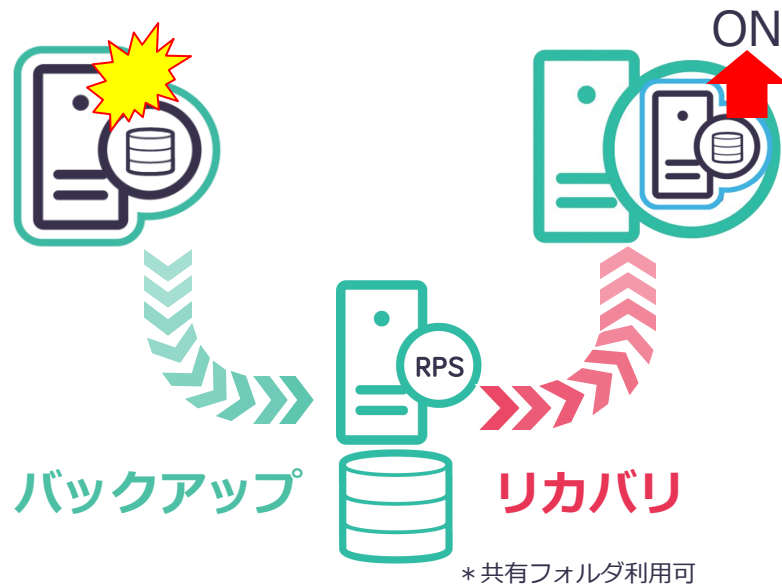
※ レプリケート先には復旧ポイントサーバ (RPS) が必要です。Arcserve UDP Cloud Hybrid には RPS がインストールされており、レプリケート先として利用することが出来ます。

仮想スタンバイ サーバによる業務継続

こんな時に
便利！

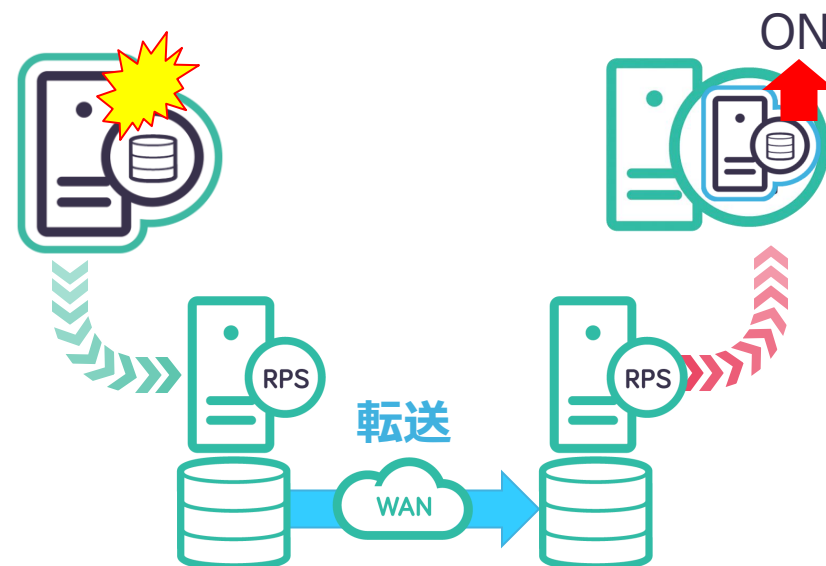
- ➔ 障害時にリストア作業せず、より早く環境を利用したい
- ➔ 災害時には遠隔地またはクラウドでサーバを即継続利用したい

同一サイト内での利用



復旧済みの仮想マシンで
素早く業務を再開

遠隔地 / クラウド(*)での利用



ローカル / 遠隔地でも構成
できる

複数のスナップショット
から適切な時点に戻せる

※ AWS EC2、Microsoft Azure、Arcserve UDP Cloud Hybrid をサポート

インスタント VM で本番サーバの替わりを即利用

こんな時に
便利！

- 予算が無く、代替環境をあらかじめ用意していない場合でも直ぐに業務を再開したい
- ウイルスなどの被害時に**本番サーバの替わり**を用意したい



※Windows のインスタント VM は VMware vSphere, Microsoft Hyper-V, Arcserve UDP Cloud Hybrid 環境のみ

インスタント VMと仮想スタンバイとの違い

インスタント VM

低コスト

The diagram illustrates the recovery process for an Instant VM. On the left, a server icon with a yellow explosion symbol represents the state before a disaster. A green arrow labeled 'バックアップ' (Backup) points to a central server icon labeled 'RPS' (Recovery Point) with a database cylinder below it. From the RPS, a dashed orange arrow labeled 'サーバ起動' (Server Start) points to a server icon on the right labeled 'ON' (On) with a red upward arrow, representing the state after recovery.

※WindowsのIVMはvSphere, Hyper-V, Arcserve UDP Cloud Hybrid環境のみ

- ❑ 事前準備が不要
- ❑ バックアップデータを参照するVMを起動
- ❑ VM 格納用のディスク領域は不要
- ❑ Windows & Linux をサポート
- ❑ バックアップデータの健全性確認に利用できるため、ランサムウェア対策にもお勧め

仮想スタンバイ

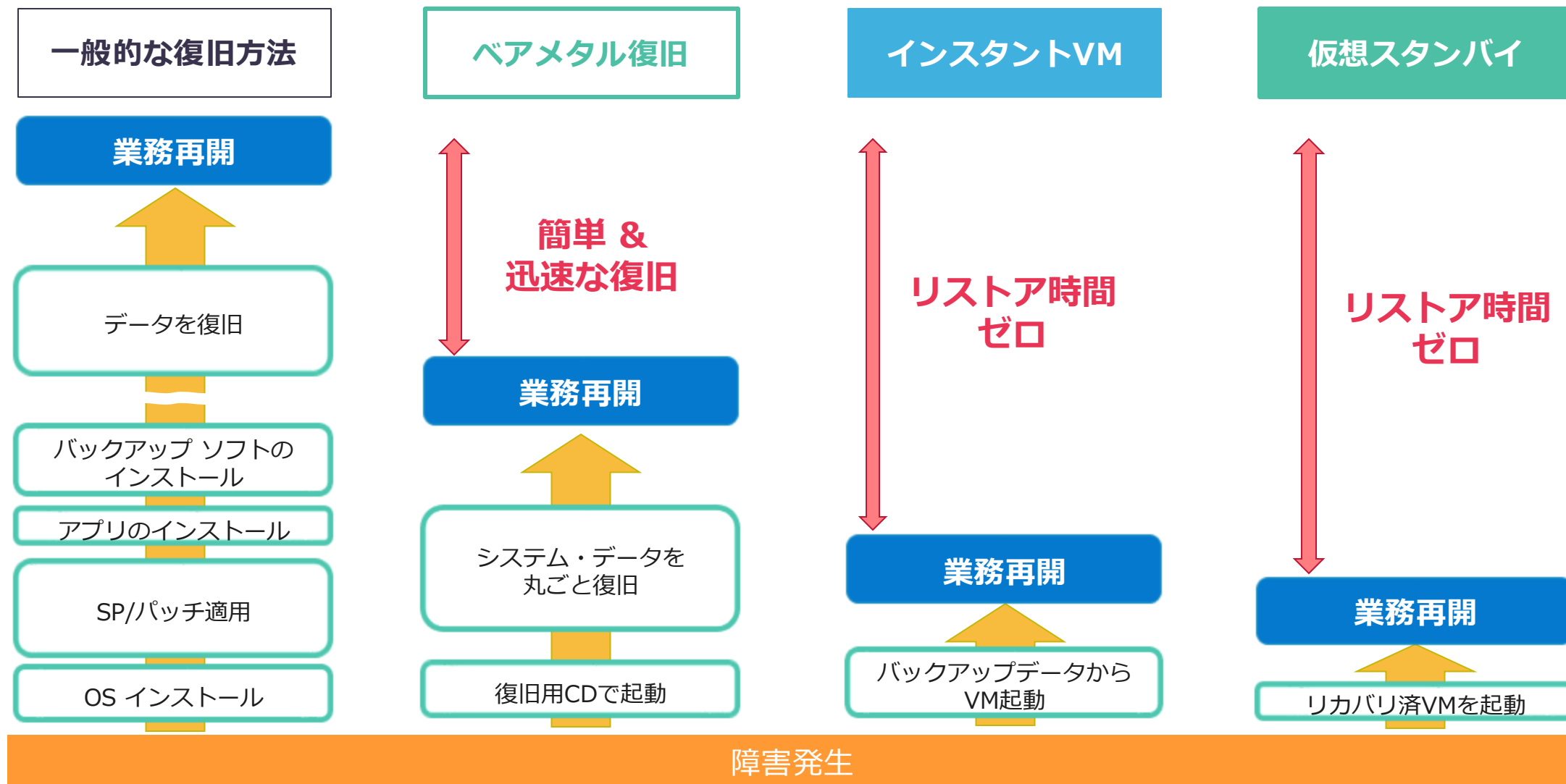
低遅延

The diagram illustrates the recovery process for a Virtual Standby. On the left, a server icon with a yellow explosion symbol represents the state before a disaster. A green arrow labeled 'バックアップ' (Backup) points to a central server icon labeled 'RPS' (Recovery Point) with a database cylinder below it. From the RPS, a red arrow labeled '自動リカバリ' (Automatic Recovery) points to a server icon on the right labeled 'ON' (On) with a red upward arrow, representing the state after recovery.

- ❑ バックアップ時にリカバリまで実行済
- ❑ バックアップデータを参照しないVMを起動するので、遅延が少ない
- ❑ スタンバイVM分のディスクが必要
- ❑ Windows をサポート



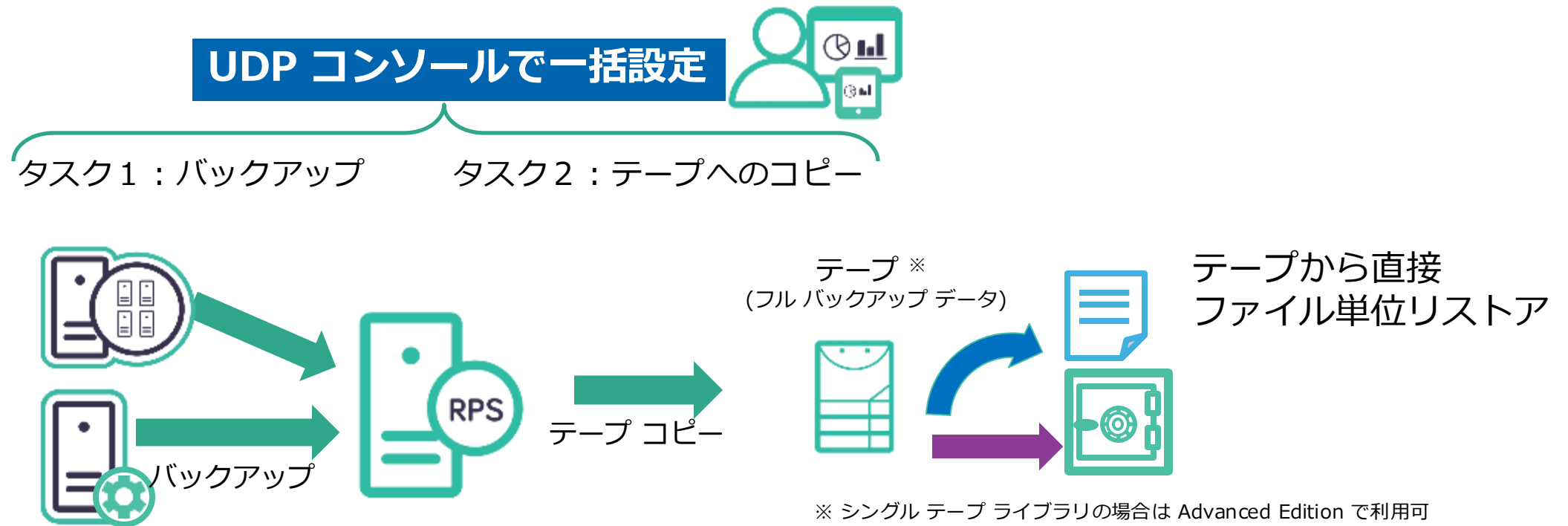
<参考> 業務再開までの時間で比較



テープへのコピー : Arcserve Backup との連携



テープへ復旧ポイントのコピーを保存し、データ保護を強化
監査対応のため**長期間**バックアップ データ保管や、**災対**サイトへの移送に対応

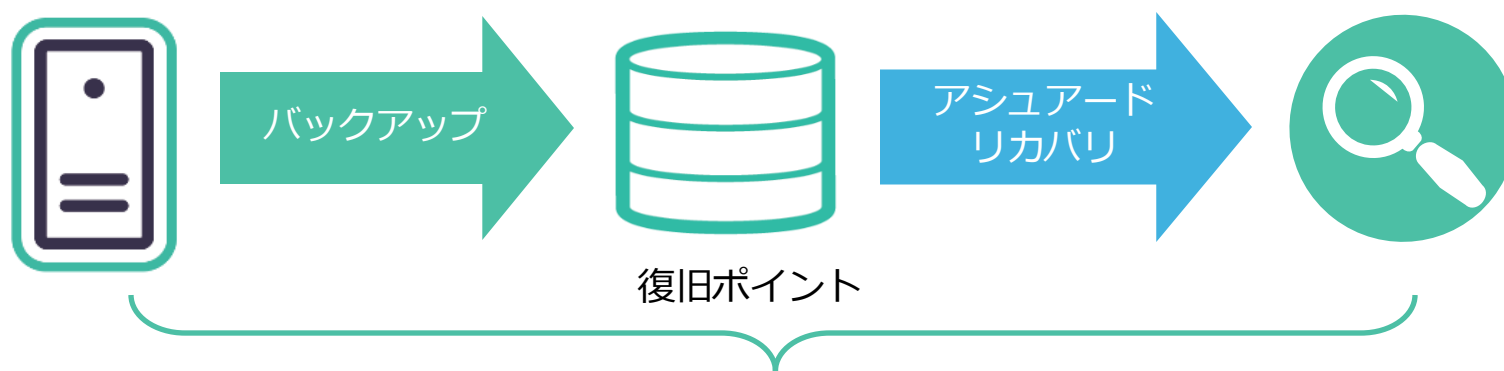


アシュアード リカバリ : バックアップ データ の健全性を自動確認



バックアップ データがリストア可能であることを手間をかけずに自動で確認
Arcserve UDP 9.0 からは標準機能として Advanced Edition で利用可能に

9.0



バックアップから確認処理の後始末までを全自動化

バックアップとレプリケート
後のデータを確認

手動、もしくは曜日・時間
を指定して実行

確認結果を
メールで通知

アシュアード リカバリ : 復旧ポイントを確認する2つの方法



インスタントVM方式



インスタントVM

本番ネットワーク
とは分断して起動できる！
確認用ディスク スペース
は不要！

[確認できるポイント]

- システムが起動可能か？
- サービス実行が可能か？
- アプリケーション サービスの整合性は取れているか？
(カスタムスクリプトを利用)

[利用条件]

- インスタントVMの実行条件を満たす物理/仮想OSを含むバックアップ
- インスタントVMの仮想基盤は vSphere / Hyper-V / AHV (Linux VM のみ)

インスタント仮想ディスク方式



インスタント仮想ディスク

仮想環境不要！
確認用ディスク
スペースも不要！

[確認できるポイント]

- ファイル システムの整合性が取れているか？
- ディスクに破損はないか？
 - ✓ chkdsk による確認も可能
- 特定ファイルの読み出しが可能か？
(カスタムスクリプトを利用)

[利用条件]

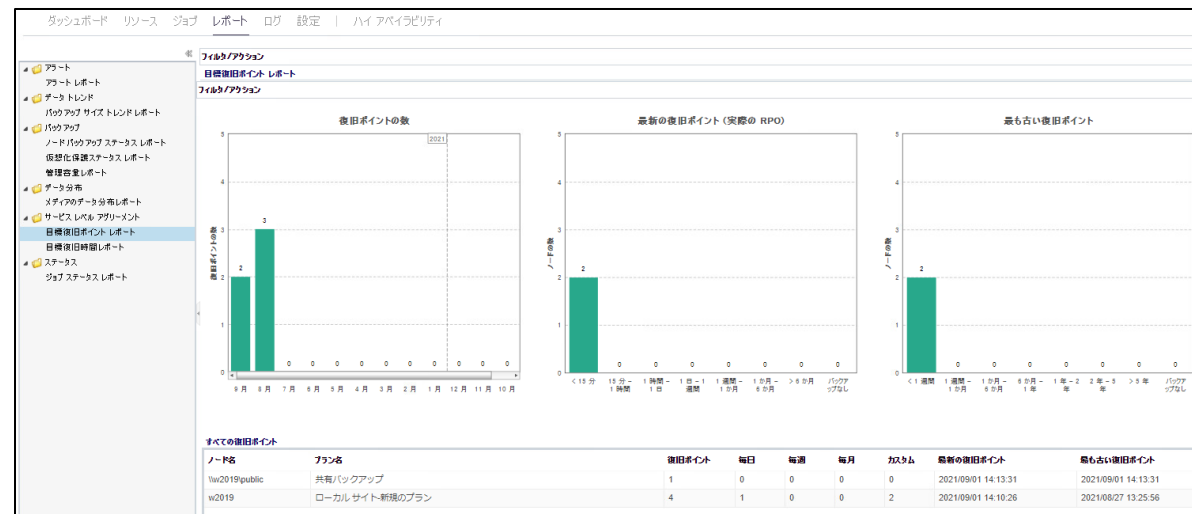
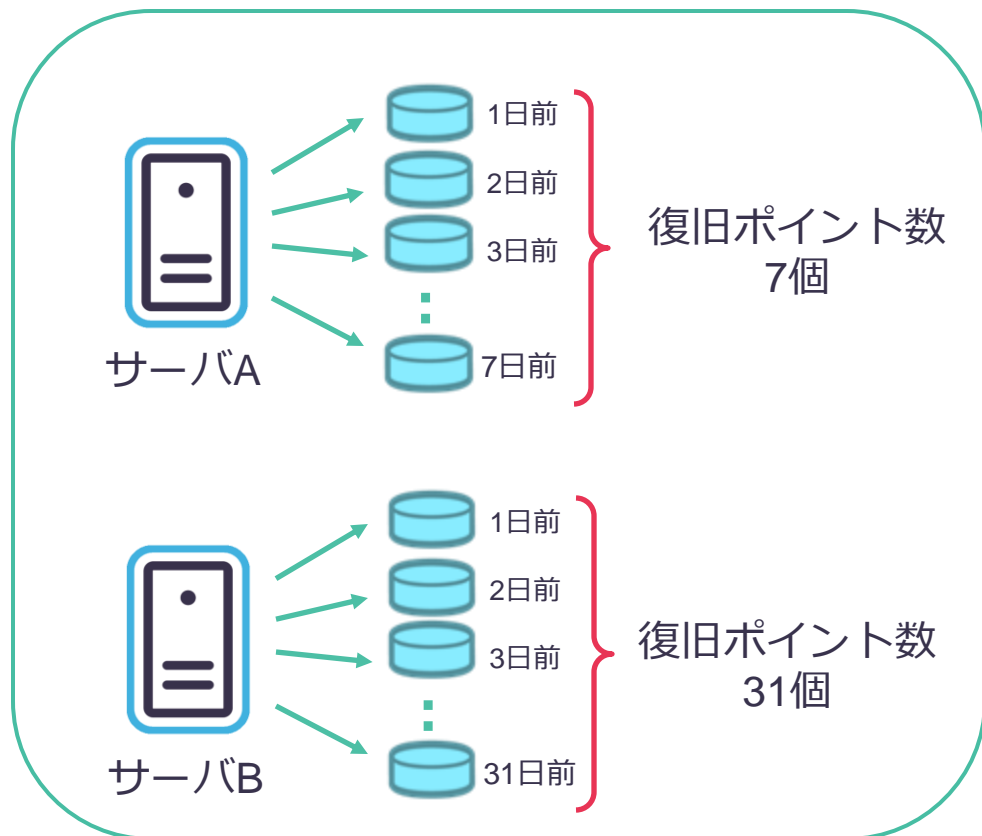
- Windows のデータ ボリューム、共有フォルダ、Microsoft 365、Oracle RMAN のバックアップ

RPO の可視化 (SLA レポート)



サーバ毎にどの時点まで戻せるかを可視化

目標復旧ポイント レポート画面



一定期間内の復旧ポイント数を
各ノード毎に表示

UDPコンソール



自動作成したレポート
をメールで転送可

RTO の可視化 (SLA レポート)



設定した目標復旧時間内に復旧できるかを可視化

測定対象

アシュアード リカバリ



BMR



インスタントVM



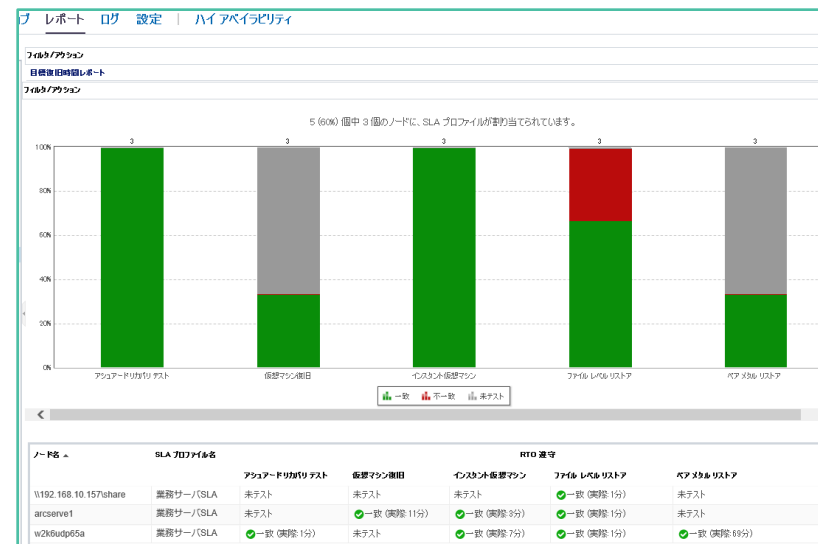
ファイル リストア



VM復旧



目標復旧時間レポート画面



実際の復旧時間と、目標の復旧時間を比較した結果を色分け表示

UDPコンソール



自動作成したレポートをメールで転送可



Arcserve Backup の利用で、より多彩な要件に対応

UDP に対応するバックアップ構成を Arcserve Backup でさらに拡張

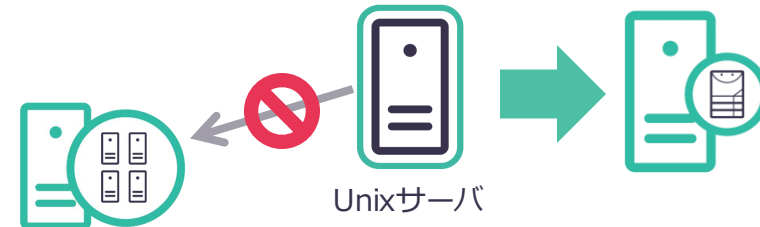
ファイル/フォルダ単位の バックアップ

特定のファイルやフォルダのみを指定して
バックアップ



Unix サーバのバックアップ

仮想環境に統合できないUnixサーバも
まとめてバックアップ



テープ バックアップの強化

D2Tでの直接バックアップや複数ドライブ
搭載のテープライブラリの利用をサポート



Arcserve Backupのその他機能

Arcserve Backupのエージェント／オプション
機能をすべて利用可能※



※日本でサポートされているエージェント・機能のみ



災害対策をさらに強化

Arcserve Replication/HA の機能を利用し、より細かな災害対策要件にも対応

ファイル単位のレプリケーション

ファイルサーバのリアルタイム レプリケーションにより、鮮度の高いデータを遠隔保護



P

アプリケーションの可用性向上

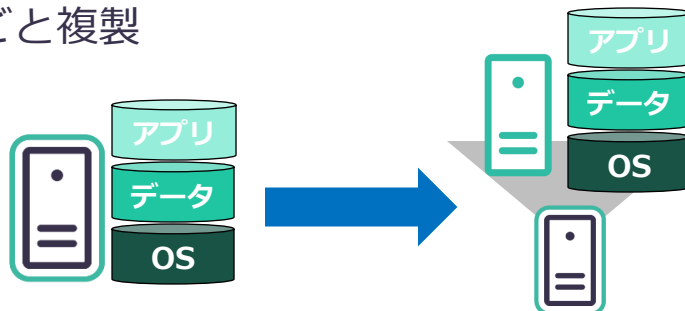
MS SQL ServerやOracleデータベースなどアプリケーションのデータを複製、スイッチオーバーまでサポート



P+

OS/データのまるごと複製にも対応

フル システム シナリオで、OS/データを丸ごと複製



P+

Arcserve RHA その他機能

Arcserve Replication/HAのシナリオおよび機能をすべて利用可能 ※

アシュアード
リカバリサービス
監視Exchange
SQL Server
Oracle
IIS

etc

※日本でサポートされているシナリオ・機能のみ

P+



2. 様々なクラウド利用のニーズへの対応

様々なクラウド利用のニーズへの対応



クラウド利用のニーズ

オンプレミスの
災害対策

クラウドで
即事業継続

IaaS/PaaS/SaaS
データの保護



利用可能なクラウドサービス

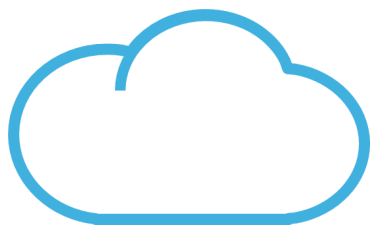
Arcserve
クラウドサービス

パブリック
クラウドサービス
(AWS、Azure)

利用可能なクラウドサービス①



Arcserve クラウドサービス



パブリック クラウドサービス



Arcserve クラウドサービス

～ Arcserve UDP Cloud Hybrid とは ～



Arcserve UDP / Arcserve UDP Appliance が持つ復旧ポイントサーバ（RPS）間のレプリケート（複製）機能を活用し、オンプレミスでの利便性の高いバックアップと、災害に備えた遠隔バックアップの「**ハイブリッド**」を実現するサービスです。

お客様オフィス、データセンターなど



バックアップ



データの複製

日常的なデータ破損やシステム障害には、手元のバックアップから**迅速に復旧**！

Arcserve UDP Cloud Hybrid



災害などによるサイト障害時には、**遠隔地のクラウド**にあるバックアップから復旧！

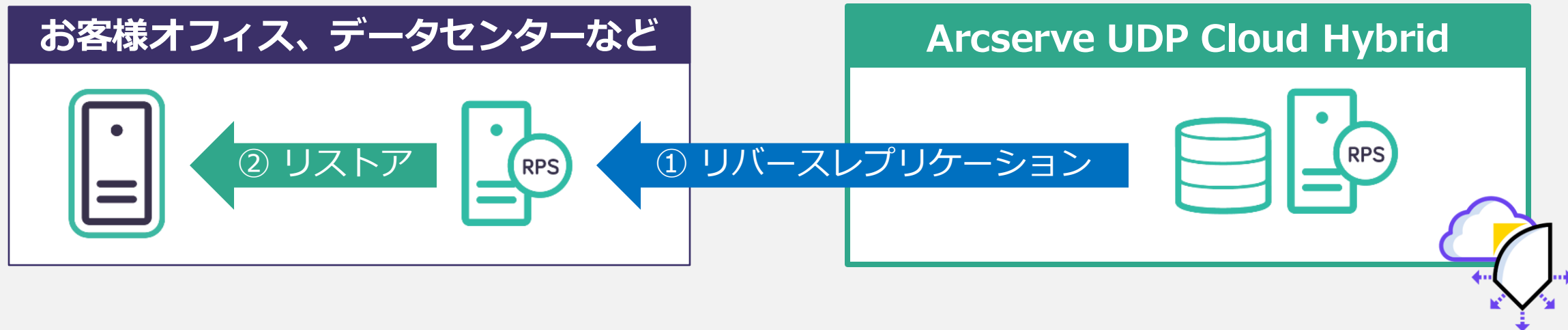


Arcserve UDP Cloud Hybrid の利用シーン1

～ 災害によるサイト障害からシステムを復旧



オンプレミスのバックアップ データが災害などで失われた場合には、クラウドから RPS へ逆レプリケーション(リバースレプリケーション機能)し (①)、そのバックアップ データからシステムをリストアします (②)。



※ ファイル/フォルダ の直接リストアも可能です。ただし、Linux の場合 Compute リソースの購入が必要です。

※リバース レプリケーション機能により、バックアップ データをクラウドから複製する際のお客様側ホスト名の提供やポート開放は不要です。



Arcserve UDP Cloud Hybrid の利用シーン2 ～ 災害時にクラウド上でシステムを継続利用



本番システムの障害時には、インスタントVMまたは仮想スタンバイ機能で、本番システムの**代替仮想マシン（VM）を起動**。VPN経由で代替VMにアクセスし**業務を継続できます**。

お客様オフィス、データセンターなど



Arcserve UDP Cloud Hybrid



代替VM生成・起動



VPN接続

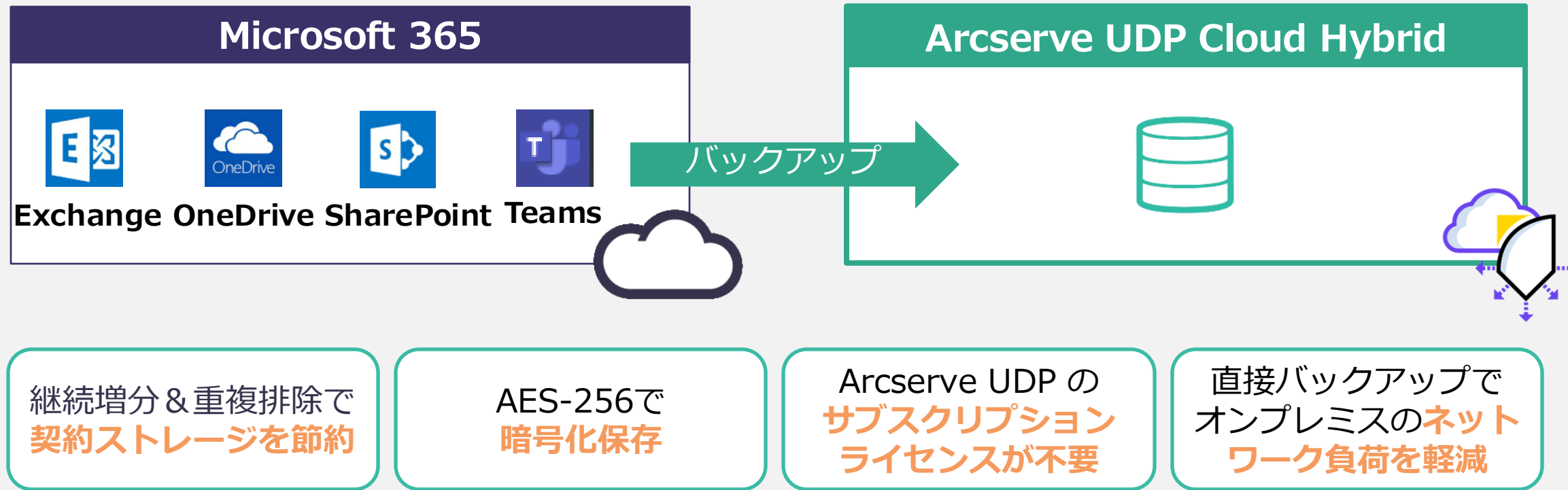




Arcserve UDP Cloud Hybrid の利用シーン3 ～ Microsoft 365 のデータを直接クラウドへバックアップ



Microsoft 365 に限り Arcserve UDP Cloud Hybrid に**直接バックアップ**できます。
しかも Arcserve UDP の**サブスクリプションは不要**！
退職者アカウントなどの保存期間を過ぎたファイル/メールを復旧できます。

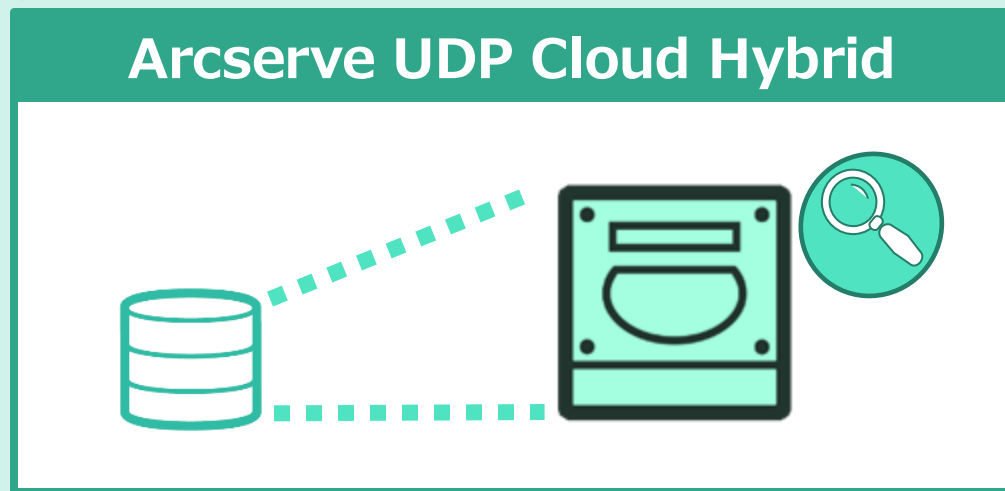




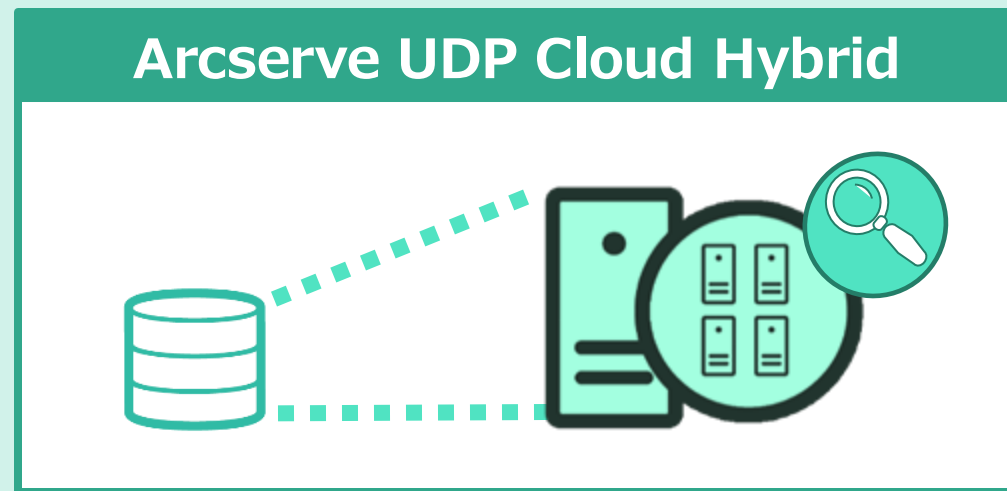
Arcserve UDP Cloud Hybrid で使えるアシュアード リカバリ機能 ～ レプリケートされたデータがリストア可能か自動でチェック



Windows/Microsoft365 のバックアップデータは**インスタント仮想ディスク方式※1**で状態確認



Windows/Linux のバックアップ データは**インスタントVM方式※2**で起動確認



- ✓ スケジュールを指定して**自動実行**
- ✓ 確認結果を管理者へ**メールで通知**

※1 CHKDSK でファイルシステムの整合性を確認
できます。

※2 Compute リソースの購入が必要です。



2つのコスト メリットで “はじめやすい”



導入
コスト



クラウド インスタンスの構築/設定作業は一切不要

- ◆ サービス契約後、クラウドを利用したバックアップ/アーカイブ運用を すぐに開始 できる状態でクラウド アカウントをご提供します
- ◆ インスタンス構築に関連する 面倒な設定作業は一切不要。
ネットワークやセキュリティも設定済なので、すぐに運用が始められます



ランニング
コスト



ご契約いただいたストレージ範囲内なら台数無制限で保護

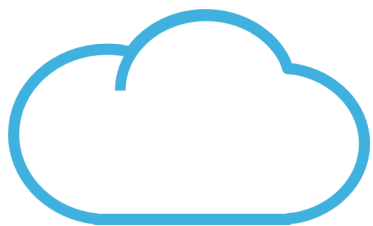
- ◆ 転送量に対する課金がなく、ストレージ課金も年契約で固定なのでコスト見積もりも容易。契約期間中でも 容量増加の追加契約ができるので契約時の容量が不足して運用を止める心配がありません
- ◆ ストレージやインスタンスのメンテナンスは、全てArcserveにお任せ、メンテナンス作業は一切不要です



クラウド対応



Arcserve クラウドサービス



パブリック クラウドサービス



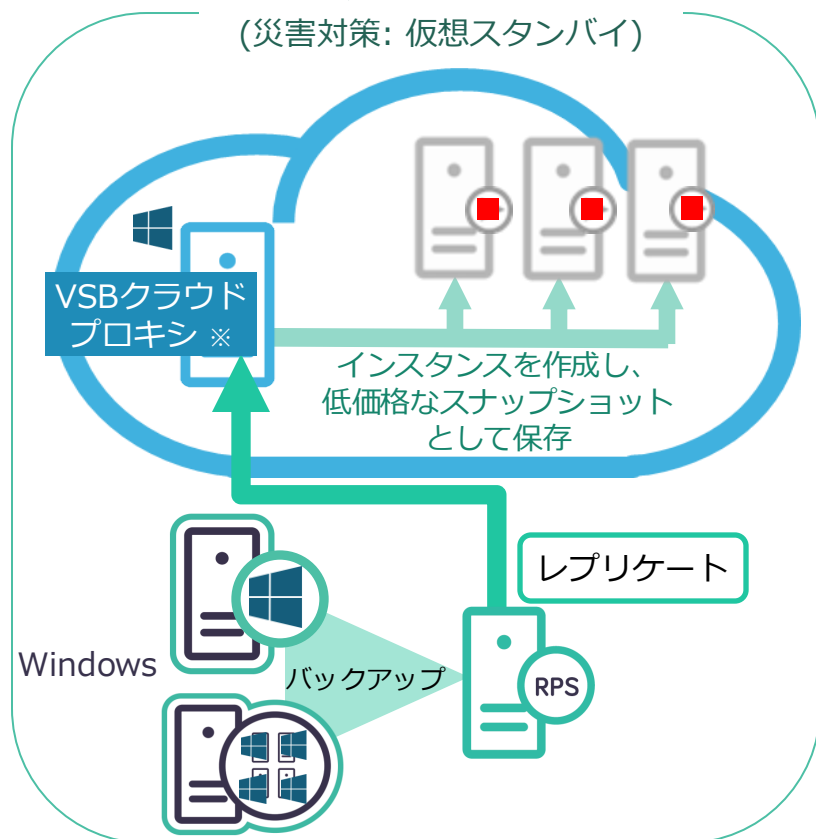
Amazon EC2 および Microsoft Azure を利用した Windows 環境の事業継続



リストア時間 “**ゼロ**” でクラウドに**即**事業継続

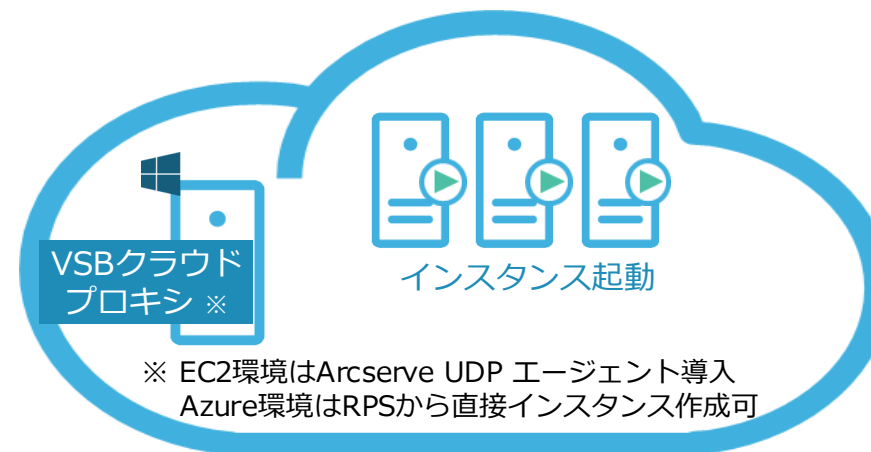
通常時

(災害対策: 仮想スタンバイ)



災害時

Azureでは低価格な Blobストレージに
ディスクイメージを保管
起動時にインスタンスを作成して
アタッチ



作成済みインスタンスを起動する
だけで業務サービスを即再開

大規模災害対応

オンプレミスへの復旧も可
(RPSレプリケート機能利用)



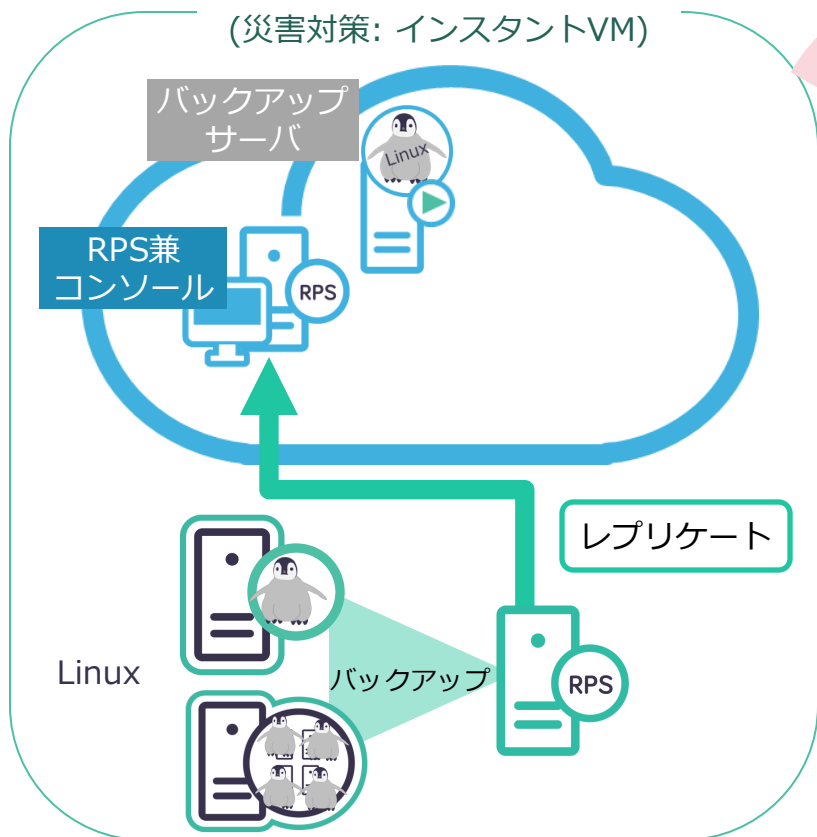
Amazon EC2 および Microsoft Azure を利用した Linux 環境の事業継続



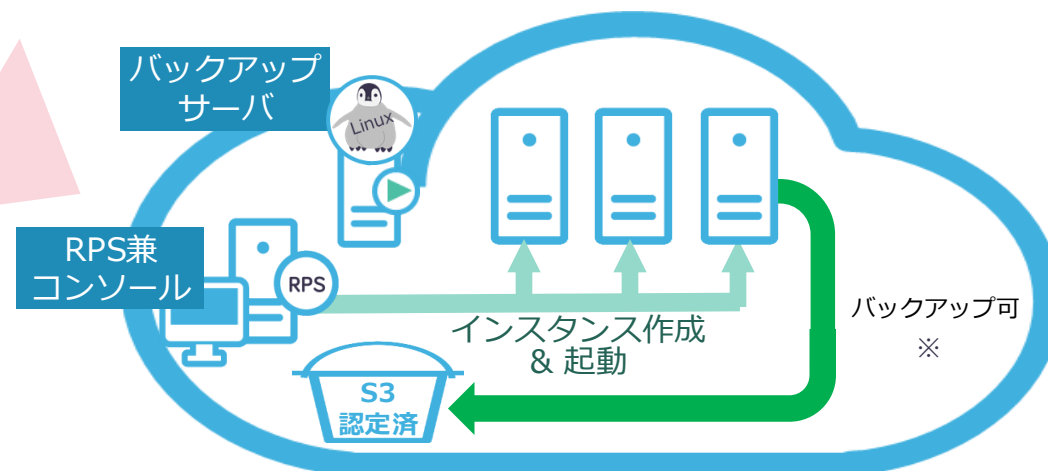
リストア時間 “**ゼロ**” でクラウドに**即**事業継続

通常時

(災害対策: インスタントVM)



災害時



わずか数ステップでインスタンス
作成し、業務サービスを即再開

大規模災害対応

インスタントVMから
オンプレミスへのBMR也可

※ インスタントVMを S3 に直接バックアップし、オンプレミスへBMR可能



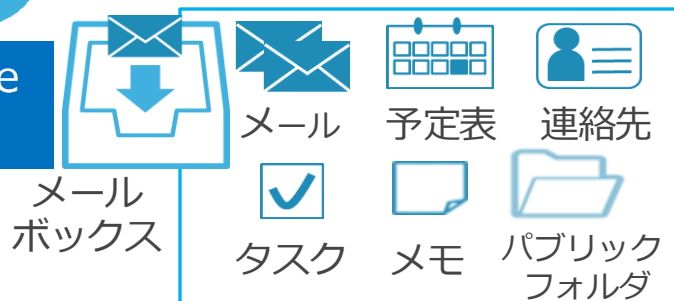
Microsoft 365 のバックアップ



重要データや退職者のメールをクラウドやオンプレミスにバックアップ
一括/個別アイテム単位で復旧

Microsoft 365

Exchange Online



-完全削除アイテム保持期間 => 14日
-削除済みメールボックス保持期間 => 30日

SharePoint Online



-テナント初期容量 1TB + 10GB × ユーザ数
-削除済みアイテムの保持期間 => 93日

OneDrive



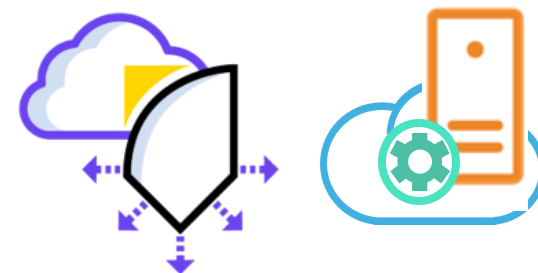
-ストレージ初期容量 1TB × ユーザ数
-削除済みアイテムの保持期間 => 93日

Teams



-削除済みアイテム => 保持ポリシーに基づき削除

クラウド



オンプレミス

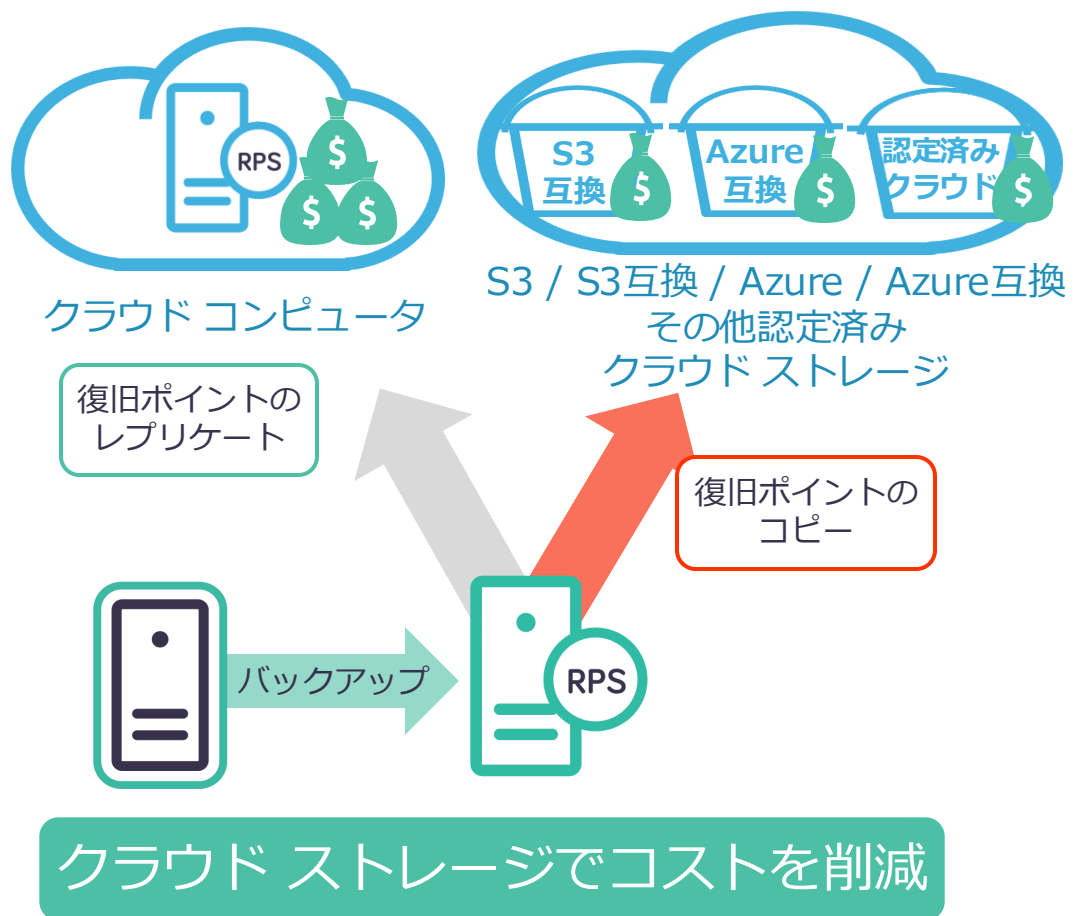




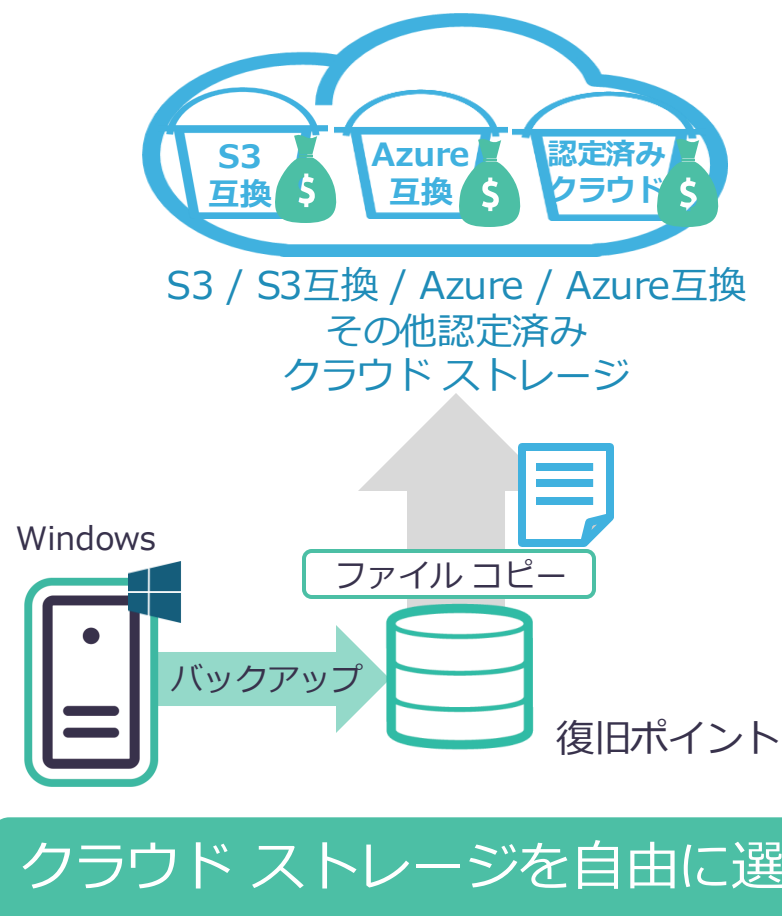
クラウド ストレージへの二次バックアップ



バックアップ データのクラウド保管



重要ファイルをクラウド保管

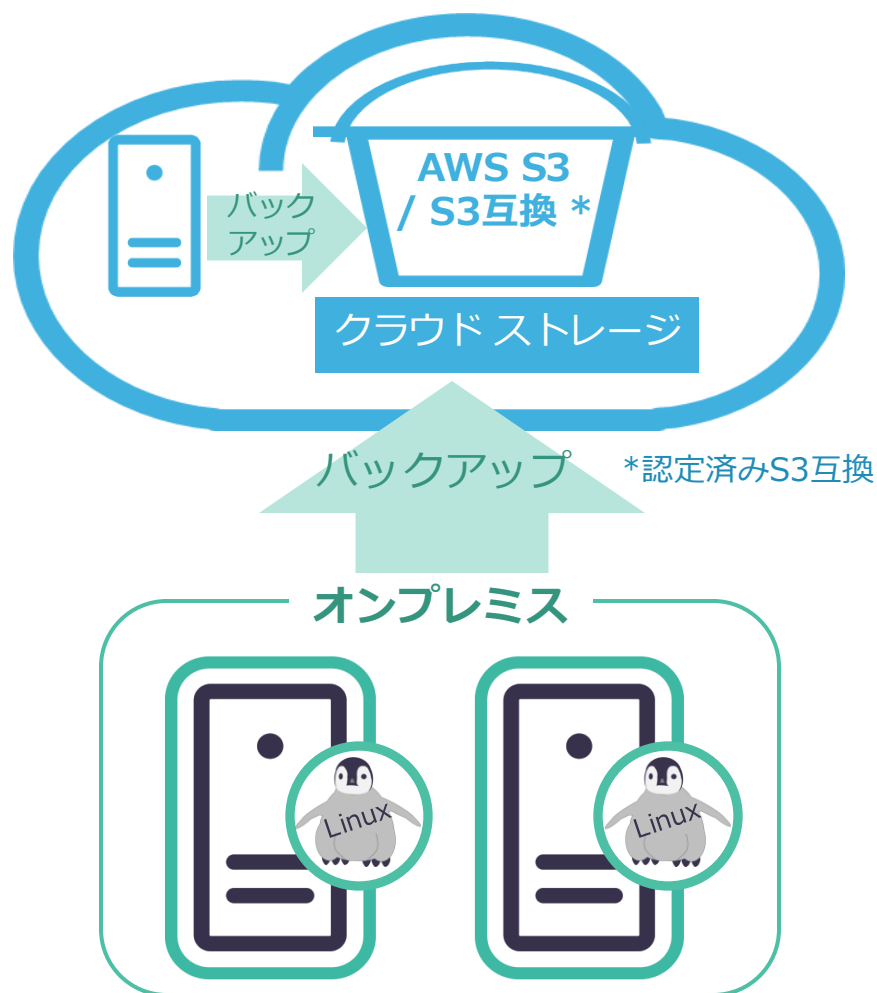




Amazon S3 / S3 互換への直接バックアップ



手軽なクラウドストレージを利用して Linux 環境の災害対策を実現



オンプレミスの
ディスク削減

Windows サーバ(RPS)不要

オンプレミスへのBMR也可

※ クラウドストレージからのファイル単位リストア可

様々なクラウド利用のソリューションを提供



オンプレミスの 災害対策

オフサイト保管:

- UDP Cloud Hybrid / EC2 / Azure への RPS間レプリケート

- 復旧ポイント(バックアップデータ)のコピー
- ファイル コピー

ダイレクト バックアップ:

- Linux サーバ を S3 に 直接バックアップおよび オンプレミスへの BMR

クラウドで 即事業継続

バックアップデータを用いた事業継続:

- UDP Cloud Hybrid への仮想スタンバイ、インスタントVM

- AWS EC2 / Azure への仮想スタンバイ、インスタントVM

IaaS/PaaS/SaaS データの保護

IaaS/PaaS:

- クラウド コンピュータの バックアップ

- EC2インスタンスから オンプレミスへのBMR
- EC2 / Azure のLinux インスタンスのバックアップおよびBMR

SaaS:

- Microsoft 365 バックアップ (Exchange / SharePoint / OneDrive / Teams)



3. セキュリティの確保・ ランサムウェアへの対策



Arcserve UDPコンソールを多要素認証で保護

管理画面へのログオン方法として多要素認証（MFA）が利用可能に

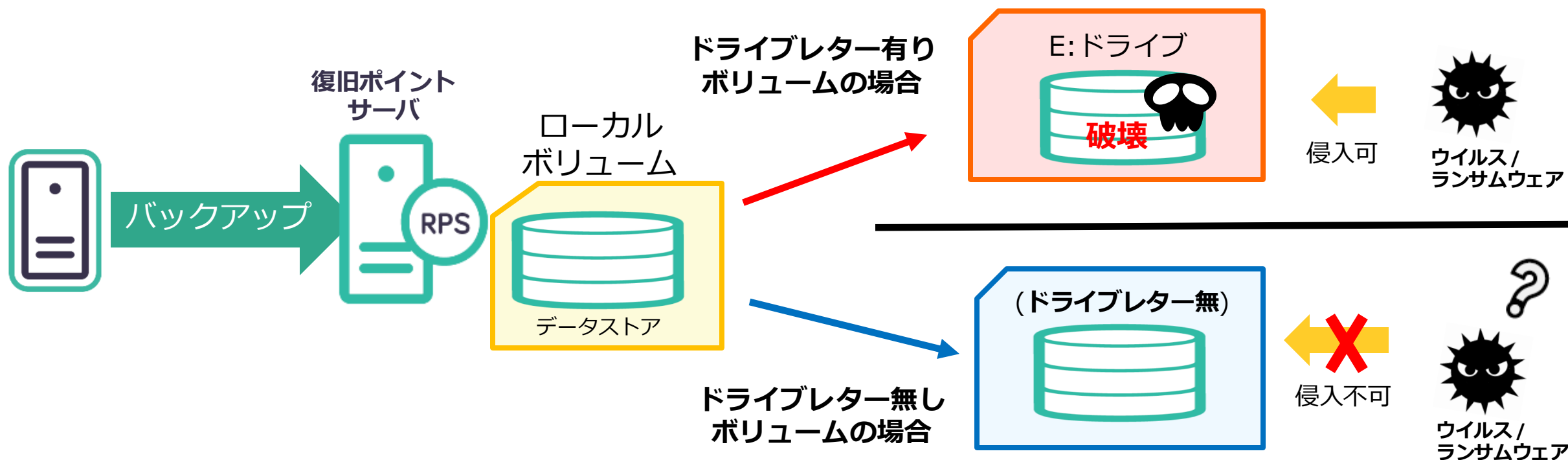


パスワード入力に加えて、確認コードの受信/入力を必要とすることで
不正アクセス リスクを低減

復旧ポイントサーバのバックアップデータ保護



復旧ポイントサーバ（RPS）内のエクスプローラーから見えない領域にバックアップデータを保管



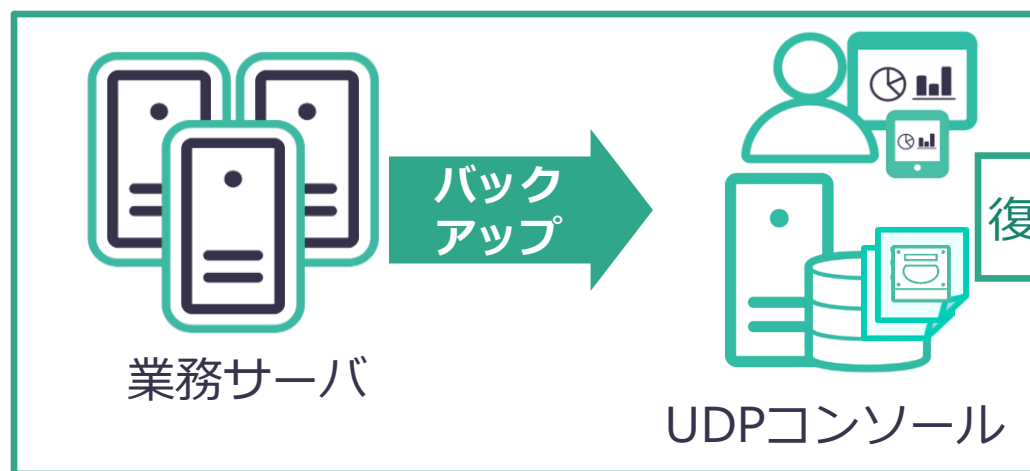
RPS 内に侵入したウイルスやランサムウェアからバックアップデータを保護

オブジェクトロックを活用しランサムウェア対策



「復旧ポイントのコピー」が不変ストレージ（オブジェクト ロック機能）に対応
バックアップ データの改ざんを防止

オンプレミス



- Amazon S3
- Wasabi Hot Cloud Storage



オブジェクト ロック
有効のバケット



- Nutanix Objects

法規制やコンプライアンス
などのデータ保持に利用

ストレージ側の設定で
保持期間後の削除も可能

フルイメージを戻して
システム復旧の利用が可



4. ライセンス

ライセンスの課金対象



ライセンスは「**バックアップ対象**」にのみ必要です。

バックアップ対象ノード数またはバックアップ対象サーバのソケット数のライセンスが必要です。
コンソールおよび 復旧ポイントサーバ (RPS : バックアップ保存先サーバ) にライセンスは不要です。

バックアップ対象



物理サーバ



仮想サーバ



クライアントPC



共有フォルダ



Microsoft 365

Exchange Online
SharePoint Online
OneDrive
Teams



特定のオプション



管理コンポーネント

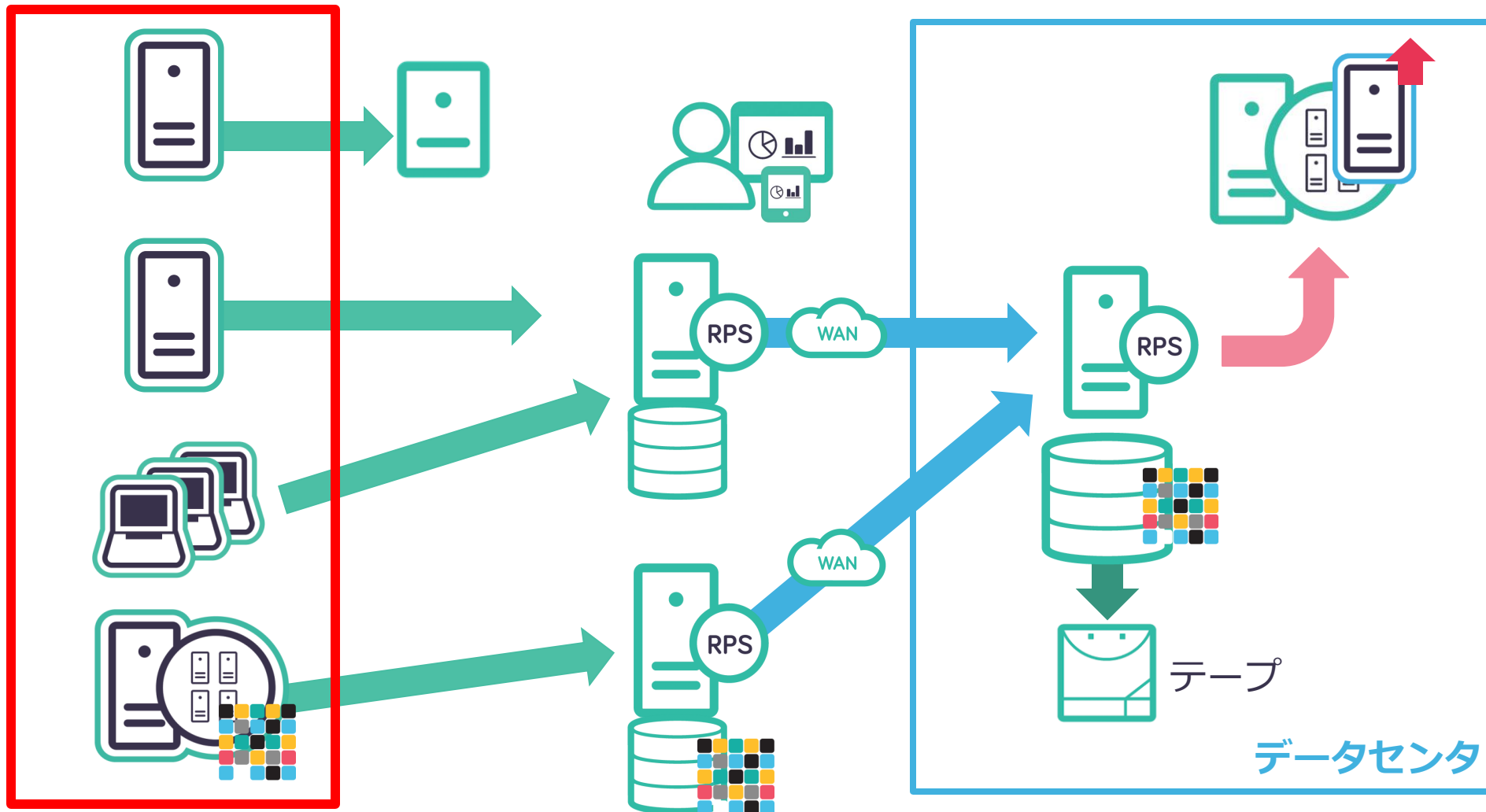


インストールメディア

機能を追加してもライセンスは変わりません！



ライセンスの対象



Editionの種類 と 含まれる機能

Edition	サーバ用			PC用	同梱 ライセンス
	Advanced/ for Nutanix	Premium	Premium Plus	Workstation	
イメージ バックアップ / 共有フォルダ (CIFS / NFS ※1) のバックアップ	●	●	●	●	Arcserve UDP
バックアップ データの重複排除や転送 (レプリケート)	●	●	●	●	
統合管理	●	●	●	●	
仮想マシンのエージェントレス バックアップ (vSphere/Hyper-V / AHV ※1)	●	●	●	●	
仮想スタンバイ/インスタント VM	●	●	●	●	
VSS ライタを利用したアプリケーションのオンライン バックアップ ※3	●	●	●	※2	
アシュアードリカバリ / SLA レポート	●	●	●	※4	
バックアップ データのテープ保管 ※5	●	●	●		
Oracle RMAN との連携バックアップ		●	●		Arcserve Backup
ハードウェアスナップショット対応 (NetApp / HPE 3PAR / Nimble など)		●	●		
役割ベースの管理		●	●		
Arcserve Backup すべての機能 / 全エージェント/全オプションの利用 ※6		●	●		
Arcserve Replication ファイル サーバのデータ複製		●	●		Arcserve Replication /HA
Arcserve Replication/High Availability のすべての機能 ※7			●		

※1 : AHV 上の仮想マシンまたは Nutanix Files のバックアップを行うには Advanced Edition for Nutanix を購入してください。

※2 : Workstation Edition では vSphere/Hyper-V への仮想スタンバイのみ行えます。

※3 : Microsoft 365 (Exchange Online、SharePoint Online、OneDrive および Teams) の保護には、別途専用のサブスクリプションを提供しています。

※4 : Microsoft SQL Server Express Editionのみオンライン バックアップをサポートします。

※5 : Arcserve UDP で1次バックアップしたデータを2次保管するためのArcserve Backup の Tape Integration ライセンスが同梱されます。シングルのテープ ドライブ の装置のみサポートします。

※6 : 「すべての機能」とは、日本語の動作要件に記載されている製品 (機能) が対象です。

※7 : 「すべての機能」とは、日本語の動作要件に記載されている製品 (機能) が対象です。ライセンスは複製元と複製先サーバ (物理/仮想ホスト)の両方にライセンスが必要です。

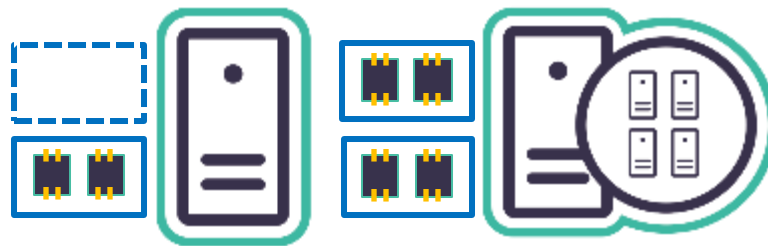
課金単位の選択



サーバ単位 課金 (per Server)

保護対象の物理サーバ台数
分のライセンスを購入
(物理サーバに適用)

Advanced



ソケット単位 課金 (per Socket)

保護対象サーバのCPUソケット
数分のライセンスを購入
(未使用ソケット分は不要)

**Advanced/
Advanced for Nutanix/
Premium/Premium Plus**



容量単位 課金 (per Terabyte)

保護対象サーバの総データ
容量分のライセンスを購入
※1

**Advanced/
Premium/Premium Plus**

注：

1. Workstation Edition はクライアントPC台数の課金
2. Microsoft 365 については、専用のサブスクリプションが存在します。バックアップ対象テナントに含まれるすべての有効な Microsoft 365 ライセンスと同数の購入が必要です。

※1 Microsoft 365 データの保護も可能

価格：永続（パーペチュアル）ライセンスとサブスクリプションから選択可能



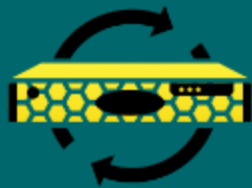
エディション	サーバ単位 (Server)		ソケット単位 (Socket)	
	永久ライセンス+ 1年メンテナンス	永久ライセンス+ 5年メンテナンス	永久ライセンス+ 1年メンテナンス	永久ライセンス+ 5年メンテナンス
Advanced Edition	¥130,000 (¥143,000)	¥222,000 (¥244,200)	¥130,000 (¥143,000)	¥222,000 (¥244,200)
Advanced Edition for Nutanix	—	—	¥130,000 (¥143,000)	¥222,000 (¥244,200)
Premium Edition	—	—	¥258,000 (¥283,800)	¥438,000 (¥481,800)
Premium Plus Edition	—	—	¥386,000 (¥424,600)	¥654,000 (¥719,400)

エディション	サーバ単位 (Server)		ソケット単位 (Socket)	
	サブスクリプション1年 メンテナンス付き	サブスクリプション5年 メンテナンス付き	サブスクリプション1年 メンテナンス付き	サブスクリプション5年 メンテナンス付き
Advanced Edition	¥44,000 (¥48,400)	¥220,000 (¥242,000)	¥44,000 (¥48,400)	¥220,000 (¥242,000)
Advanced Edition for Nutanix	—	—	¥44,000 (¥48,400)	¥220,000 (¥242,000)
Premium Edition	—	—	¥87,000 (¥95,700)	¥435,000 (¥478,500)
Premium Plus Edition	—	—	¥131,000 (¥144,100)	¥655,000 (¥720,500)

エディション	容量単位 (1TB)		容量単位 (1TB)	
	永久ライセンス+ 1年メンテナンス	永久ライセンス+ 5年メンテナンス	サブスクリプション1年 メンテナンス付き	サブスクリプション5年 メンテナンス付き
Advanced Edition	¥784,000 (¥862,400)	¥1,312,000 (¥1,443,200)	¥128,000 (¥140,800)	¥640,000 (¥704,000)
Advanced Edition for Nutanix	—	—	¥128,000 (¥140,800)	¥640,000 (¥704,000)
Premium Edition	¥1,305,000 (¥1,435,500)	¥2,181,000 (¥2,399,100)	¥255,000 (¥280,500)	¥1,275,000 (¥1,402,500)
Premium Plus Edition	¥2,289,000 (¥2,517,900)	¥3,817,000 (¥4,198,700)	¥382,000 (¥420,200)	¥1,910,000 (¥2,101,000)

※メンテナンスは3年、4年もございます。インストールメディアは別売です。金額は税抜きで、括弧の中は税込みです。

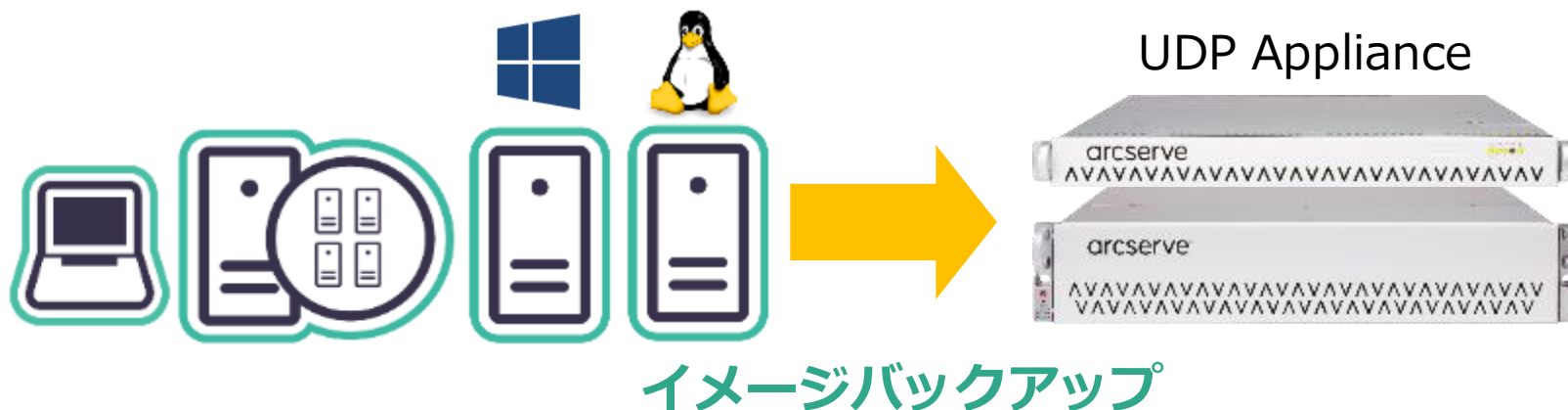
※アカデミック用など記載のないライセンスは "<https://www.arcserve.com/jp/licensing-options>" を参照下さい。



Arcserve UDP Appliance

バックアップ専用アプライアンスサーバ

Arcserve UDP をプリインストールしたバックアップ専用アプライアンス
内蔵ディスクにバックアップできる限りライセンスが使い放題
中規模・大規模環境のバックアップをより簡単にシンプルに実現





アプライアンスで運用コストを削減

サイジング不要で設置も簡単、大容量ストレージへのバックアップで容量不足の心配無し！

バックアップ
ソフトウェア



バックアップ用
ハードウェア



5年間
メンテナンス付

Arcserve UDP プリインストール
ライセンスフリー

ハードウェアサイジングが不要

2年目以降の更新費用不要



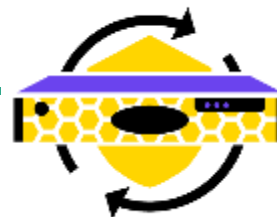
1U モデル	価格(税込)
9200 v2 (RAID-5: 12TB)	6,490,000 円
9200-6 v2 (RAID-6: 8TB)	5,390,000 円
9220 v2 (RAID-5: 24TB)	9,790,000 円
9220-6 v2 (RAID-6: 16TB)	8,690,000 円

2U モデル	価格(税込)
9400 v2 (RAID-6: 40TB)	14,190,000 円
9420 v2 (RAID-6: 80TB)	19,690,000 円

サポート対応

- ✓ **Arcserve テクニカルサポート**にて窓口対応。
Arcserveでワンストップサービスを提供
- ✓ ハードウェア故障は**オンサイト**（現地訪問）対応が可能
部品交換が必要な場合、現地訪問は問題特定から4時間駆けつけ目標（※1）
- ✓ メンテナンス期間内であれば、Arcserve UDPの**無償アップグレード**が可能
（アップグレード作業はお客様にて実施いただきます）

※1 サービス拠点(札幌、仙台、東京、名古屋、大阪、広島、福岡)より30km圏内での目標となります。



※ 価格の詳細は” <https://www.arcserve.com/jp/licensing-options> ”を参照下さい。

Arcserve 無償ハンズオン セミナー & Web（動画） セミナー



Arcserve Backup

1. 入門編
2. システム復旧編

Arcserve UDP

1. 前編(Agent)
2. 後編(Server)
3. Linux Agent 編

Arcserve Replication/ High Availability

1. 前編 (Replication)
2. 後編 (HA)

お申し込みは

Arcserve セミナー

検索



まで。

お問い合わせはこちらから



Arcserve ポータルサイト : www.arcserve.com/jp
カタログセンター (カタログ、技術資料)

Arcserve カatalogセンター

検索



Arcserve ジャパン ダイレクト (購入前のお問い合わせ)

例 : 「この構成で必要なライセンスを教えてください」、
「Arcserve UDP はXXXに対応していますか?」、
「XXXはサポートされますか?」



フリーダイヤル : **0120-410-116**

(平日 9 : 00 ~ 17 : 30 ※土曜・日曜・祝日・弊社定休日を除きます)

Webフォーム : <https://www.arcserve.com/jp/about/contact/call-me/>

Arcserve UDP はあらゆる業種のお客様の課題を解決しています！



株式会社日本製鋼所様

arcserve®

Arcserve UDP 導入事例 |

> 15分でサーバ起動可能な BCP体制を Arcserve UDPで確立

仮想・物理のバックアップ統合も果たしながら、作業工数、コストは1/5に減少

ユーザープロフィール

業 種：製造業
会社名：株式会社日本製鋼所 横浜製作所

JSW

課題

システム構築の多くを得意先とした日本製鋼所で、横浜製作所では、バックアップ・ダブを扱うことは事業継続計画の担当が担当立が前年の職務だった。従来の体制では、データウェアハウス業務の一部で、一旦バックアップが完了したら、バックアップ作業そのものが管理でサポートも困難であるなど多くの課題を抱えていた。

経緯

制作所では、仮想基盤のプラットフォームを複数台のサーバー・サービス実装（仮想）環境で、そのためのArcserve UDPの運用が上流。運用にあたっては、仮想基盤の機能も活用しながらバックアップ後のデータのバックアップに必要のソフトウェアのインストールも、どうすれば運用で稼働可能と想定したシステムの構築と運用も必要期間ができていた。

導入

バックアップと仮想システム構築環境での即時レスポンス、動作が速いバックアップ・システムに実装すること、システム、仮想の管理も物理環境のバックアップでも可能であることが重要。Arcserve UDPを導入した。製造所担当のサーバー・ハードウェアと併用であること、運用した。

効果

2014年8月に新システムは、稼働を開始し、仮想システム構築環境のバックアップが実現することになった。バックアップ作業は、15分に削減した。また、仮想基盤と物理環境のバックアップが実現することになった。作業工数、コストが従来の1/5に削減した。また、仮想システム構築環境のバックアップが実現することになった。作業工数、コストが従来の1/5に削減した。また、仮想システム構築環境のバックアップが実現することになった。

assured recovery™

株式会社クレオ様

arcserve®

Arcserve UDP 導入事例 |

➤ Arcserveの従量制課金モデルで バックアップサービス提供の リードタイムを約1/5に短縮

クラウドを支えるバックアップはやはりArcserve UDP

ユーザープロフィール

業 種 ITサービス業
会社名 株式会社クレオ

 株式会社クレオ

課題

クレオは、企業や組織のIT部門向けに、社内システム運用の効率化やコスト削減を目指すクラウド型ITサービスを提供する会社です。同社は、Arcserve製品ファミリーはSmartStage HCUOなどの機能があるソフトウェアに統一して、自社開発のプログラムや専用のバックアップソフトを使っている。

経緯

しかし、運用が重むにつれて、さまざまな弊害が顕著になってきた。ソフトウェアファミリーの存在により多岐多岐データを管理できない、バックアップ機能が限定的な、運用管理の煩雑な点、ライセンスおよび保守管理が複雑化する、などが挙げられ、リスクの軽減に貢献できない状況はIT管理会社としての使命を遂行し続けることを難しくした。

導入

技術者視点で見ていただくと、定期的なバックアップが不可欠なことはよく知られた事実である。その点に照準を定め、同様に信頼性の高いバックアップができること、かつ、ライセンスおよび保守管理が簡便化できる従量制課金ライセンス、両者の要素を兼ね備えているという点に注目を集めて、Arcserve UDP。

効果

導入の結果、バックアップファミリーサイズは約90%削減、同社の顧客がITで悩んでいる点で、同サービスに期待する点で、リードタイムは導入前の約1/5に短縮した。サービスコストも大幅に削減された。ライセンスおよび保守料が約1割以下に、導入後の約半額以下に、顧客の悩みの多いバックアップの運用コストで、業務の効率化やコスト削減とともに顧客へのサービスレベルが向上した。

assured recovery

株式会社ライフサポート様

arcserve®

Arcserve UDP 導入事例 |

> "待ったなし"の業務を、 PC故障による深刻な停滞から 救ったArcserve UDP

最低でも2日間はかった復旧作業が2時間に、第一印象は「まるでタイムマシン」

ユーザープロフィール

業 種：保険代理業
社 名：株式会社ライフサポート

総務部 **ライフサポート**
IT department
it@lifepart.jp

課題

あらゆる種類のビジネスでIT化が進む中、保険業界でも顧客対応から事務手続きまで、デジタル化が進展が加速している。埼玉県東城市で地元密着型保険代理店業を営む株式会社ライフサポートでも、そのデジタルワークフローと3台のハードディスクを8のスタッフの日常業務に活用。業務におけるITの重要性は高まっていた。

経緯

デスクトップPCが毎年劣化で不具合を起すようになり、業務が滞る事態が発生した。ハードディスクの故障で3日間業務に停滞がもたられた。「待ったなし」の対応が求められる業務環境において、大規模な備蓄となっていた、そこに、経験豊富なある小山は奮然として、システムインテグレーション会社へ。

導入

システムインテグレーションの復旧と3時間がかかったことが原因の急ぎを察した、イメージバックアップを依頼し、それをそのシステムで書き戻し2日間も経たず完了することはない。そこでライフサポートはArcserve UDP Workstation Edition (以下、Arcserve UDP)を導入を提案し、小山は導入を決めた。

効果

導入直後にPCの不具合が発生したが、小山は自分自身で手帳に書いていたバックアップ作業を実施。復旧が完了し、わずか2時間程度でPCは復活し、業務に支障をきたす事態を防ぐことができた。現在は、Arcserve UDPを導入したことに、速く、分かりやすいバックアップ体制を構築し、事業継続性を実感した。

assured recovery

詳しく知りたい方はこちら ⇒

Arcserve カタログセンター

検索



arcserve®

arcserve Japan合同会社

arcserve.jp

